

ヒューマン・ケア研究

December 2014

15-1

Journal of Human Care Studies Vol.15 No.1

第15巻第1号

日本ヒューマン・ケア心理学会第15回大会特別講演

- 愛しい人を失うとき 細谷亮太 1
—小児科医から見た生と死—

報告・資料

- 対人場面における強みの活用行動とその意識構造の検討 駒沢あさみ・石村郁夫 10
- 「箱庭—物語（サンドプレイ—ドラマ）法」を 小森國寿・菅佐和子 22
喪の仕事に役立てるための一試み
- 会 報 34
- 編集後記 67

日本ヒューマン・ケア心理学会第15回大会特別講演

愛しい人を失うとき —小児科医から見た生と死—

聖路加国際病院小児総合医療センター長 細谷亮太

ご紹介いただいた聖路加病院の、まだ聖路加病院の小児科の細谷と言えるような立場におられます。細谷です。65になると、一応、日野原先生はもうすぐ102歳になりますけど、お辞めになっておられないようにお考えの方がいらっしゃるかもしれませんが、理事長はボランティアで理事長をなさっておられて、お給料もらいながら働くって言うのは65で一応おしまいになるんですね。65を過ぎて、私は今特別顧問っていうのと、小児総合医療センター長という立場で働かせていただいています。

井部さんから座長をしてもらいながら、講演をする日があるとは思わなかった、という風に思います。井部さんは私の先輩でして。年がわかっけてしましますが。もう本当に一緒に聖路加病院にずーっと長くいたというような感じのする、非常に貴重なナースのお友達の中の一人であります。

こどもと死

今日は、堀内さんから、「愛しき人」っていう、大事な人を亡くした、亡くすっていうことで、今回のこのヒューマン・ケア心理学会のテーマが「死別後も続く絆」というようなことであります。僕は小児科として、子どもをたくさん看取って参りました。それは、大人と違って子どもは、死ぬべき存在ではない人たちなので。大人の場合は一年間に100万人生まれて100万人死ぬというような、塩梅に世の中がなってます、日本の場合ですね。それで大体人口が、こう、ステイブルに、えー、スタビライズされるわけですけども。

ここんとこ死ぬ人の数が少し多くて、生まれる人の数が少ないので、数が少しずつ、少しずつ減っております、日本の総人口が。でもそういう中で、0歳から20歳まで、小児科が関わるというように小児科学会はアピールしてる。0歳から20歳まで、1年間に亡くなる人の数っていうのはおよそ5,000人です。100万人、大人は死ぬんですが、子どもは5,000人しか死なない。5,000人しか、という風に言っているかどうかは、それはそれぞれのお考えがあるかもしれませんが、100万人と比べれば数学的に言えば断然少ないんですよ。それで、その少ない5,000人のうちの2,000人はですね、1歳までの間に亡くなります。100万人のうち2,000人が亡くなるということを、乳児死亡率が2.0という風なことになるわけですね。それで、残りを考えて見ますと、5,000人のうち3,000人が1歳を過ぎてから20歳になるまでに亡くなるということです。

小児がんの治療が難しかった頃

昔、僕が小児科の医者になった1972年頃は、小児がんがまったく治りませんでした。ほとんど治すことができなかったんです。1年間に小児がんの患者さんっていうのは日本でおおよそ3,000人から4,000人くらいのが発生しますから。毎年その、小児がんだけで3,000人とか4,000人の方は亡くなっていた時代がその頃あったわけですね。その中で、僕は小児科の医者になりました。で、聖路加病院は私の前の部長の西村昂三先生という

先生が、その当時、山本高治郎っていう先生と二人で率いていらしたんですけども。西村先生のご専門は小児がんでしたので、日本中から、小児がんの患者さんでどうしたらいいかわからないと、治すのにも治し方もわからないし、治療の方法もわからないというような人がたくさん集まって来られ、結局、病棟で亡くなっておりました。乳児以外の、今日あの堀内先生が会長ですから、乳児について言えば、赤ちゃんが亡くなるっていうのもその当時たくさん、今よりはまだ乳児死亡率も高かった。300gとか400gの赤ちゃんはもう助からなかったですよ。1000gを切ったらなかなか難しかったっていう時代ですから、亡くなる子どもたちはたくさんいました。聖路加病院で働いていた私にとっては、子どもは死んではいけないんだけど死ぬ存在だ、というようなことをつくづく感じさせられるような時代が今から40年くらい前にはありました。

日本におけるグリーフケアの萌芽期

その当時、子どもの死について考えるということをする人はほとんどいなかったんですね。えー、小児科学会にも死のセッションなんかはありませんでしたし、それから緩和ケアとかそういうのもまだまだ未熟で、子どもについてはもう全然度外視されていましたので。でも、アメリカで小児がんをやった連中は治せないんだっからせめてその最期をよくしてあげようということで、緩和のケアを一生懸命やって、グリーフケアまでずーっと続けてやるというような時代が小児の悪性腫瘍の領域では、スタートしていたんです。西村先生が日本に戻られて、ちょうど7年目くらいで私が聖路加に就職をいたしました。なんていうか、あんまり乾いた感じではなくて、少しウェッ

トで、そういう亡くなっていく子どもたちのケアをしたりするのはいい塩梅のやつが来たと思われたのかもしれませんが、一生懸命そのことについて、私に頑張るように西村先生はけしかけましたし、僕も本当に、その子どもを亡くすお母さんとかお父さん、亡くなっていく子どもももちろんですけど、大変なことだという風に心から思いました。自分の一生の仕事は、さっき井部さんが紹介してくれた僕の俳句¹にあるように、看取ることなんではないかという風に最初の頃思ってた。それで、5、6年ですかね。1972年から1978年まで6年間はそんな感じで暮らしました。一番最初のイニシエーションと申しますか、最初の動機づけがですね、そういう状況だった。その後、アメリカに行って、治す治療を一生懸命やっていたんですけれども。でも、やっぱり治る人たちも色々な障がいを抱えたりなんかして治っていくこともあるわけですから大変なことだと思いました。治せるようになってからも亡くなる人たちとそれから亡くなる人の周りにいる人たちが、とてもほっとけないというような感じが私の中でずーっと続いておりました。さっき、あの紹介していただいたもう一つの俳句は「朝顔の 花数死にし 子らの数」。僕がアメリカに行く前に作った句なので、まだ医者になってそんなに時間は経っていません。その頃、聖路加病院では毎年子どもたちが1年間に10人ぐらいは亡くなっていましたから、4年目でまあ私が直接関わった人だけでも十何人は亡くなった子がいたはずですよ。何百人という数ではなくて、十何個の朝顔が夏休みに帰省したら、自分の実家の庭にですね、朝顔が咲いていて、その花の数がちょうど今、今まで自分が看取った患者さんの数と似た数だっている風に思ってきたのが、「朝顔の 花数死にし 子らの数」。「逝く」とかですねえ、その「亡くなる」とかいうよ

1：開演冒頭で司会の井部俊子先生から以下の2句の紹介があった。

朝顔の 花数死にし 子らの数
みとること なりわいとして 冬の虹

うなのはその当時の私にとっては非常になんていうか他人事のように聞こえて。やっぱり病気の子どもは死ぬんだっていうような、「死ぬ」って言う言葉のほうが自分に直接的にこう、響く時代だったんですね。それが、でも私も、年をとってきて、色んな経験をしました。子どもたちが亡くなったときに、例えば「6歳で白血病で逝去」という風に言われると、「逝去」っていう言葉が一人前の人間としてちゃんと認めてもらえているというような気がして。とても仲間としてはありがたいことだという風に思ったりするようにもなったりするのが、とても不思議です。

各地における取り組み

今日一番最初にちょっと10分くらいビデオを見てもらおうと思うんですけども。このDVDは私たちの仲間が今小児のホスピスを色んなところに作ろうとしています。例えば、北海道の「そらぶち」という子どものキャンプ場は、難病の子どもたちがそのキャンプに来れる、その他に地域の子どもたちで人工呼吸器をつけてるようなご家族がレスパイトというか、お休みに来て非日常的な自然の体験ができるような施設なんです。その他に聖路加の、僕の3年後輩に当たりますけど、富和先生っていう遺伝をやった先生が今東大寺の身障者の施設で働いているんですけども。その先生が東大寺の1300年の歴史の中で、一晩そういう大変な子どもたちに時間を過ごしてもらおうということで活動をしています。その次の日の朝、誰もいない東大寺の大仏殿に連れてって、お参りをしてもらった後に戻ってきて、ボランティアの心尽くしの朝がゆをご馳走しようというような試みをしていますし。そのような活動の仲間の前田先生っていう在宅をやってる、もともと小児の血液をやった先生がいるんですけども、その先生が最期を在宅で看取った女の子の映像をちょっと見



てもらいたいと思います。

気付き・共感・行動

NHKで放送しましたので、ご覧になられた方はたくさんいらっしゃると思いますけれど、今日見ていただくポイントは、その、大事な人とさよならをするっていうことがそれぞれの人にとってどんなことなのかっていうことに特に注目をしながら見て下さい。お母さんとお父さんと、本人、それから在宅をしているその先生が出てきます。何年も何年もNHKのクルーが入っていた家族なので、別にカメラに対して意識をせずに普通にお話しをしたり普通に行動したりしていますから、見ていただくと色んなことに気づくと思います。気づくっていうのが、やっぱりとても重要なことですね。ヒューマン・ケアっていうか人間をケアするときに、非常に重要なのがその気づくということで、その気づいた後にそのことについて共感を持つと、そのことについて自分の心を動かすというか、感動するというようなことが2番目の大事なことで。で3番目に、そのことでどういう風なアクションを起こすかということが、人間のケアにとっては非常に重要なことなんだと思います。私たちの先輩で柏木先生っていう淀川キリスト教病院で、大人のホスピスを作られた先生がいらっしゃいます。大人のホスピスは亡くなる場所

なんですけれども、子どものホスピスは亡くなる場所ではなくて、その一生のうちあそこにいたときがとっても楽しかったねってようなことを言って、おうちで亡くなれるってというのが子どもの死にとっては一番幸福なことだと私は思っています。場所として「ホスピス」っていう同じ名前がついてますが、違うんです。その柏木先生は、大人のホスピスのほうの一番最初のものを作られた。その先生が、こないだ何かの本に書いておられました。その飛行機に乗ってですね、老夫婦が、機長が「左側の下に、世界遺産の富士山がとっても綺麗に見えます」って言ったときに、窓際にいたおじいさんとそれから通路側にいたおばあさんが窓のほうにぐっと寄ってって、乗り出すように窓にひつつくようにして富士山を見てた。そのうちに、そのおばあさんがバッグから写真立てのようなものを取り出した。その写真立てを窓にこう押しつけるようにしてた。そこを、そのスチュワーデスさんがですね、飲み物のサービスをしながら歩いて来て、「何になさいますか?」。おじいさんはリンゴジュース、「アップルジュースをください」、おばあさんも「アップルジュースを」って言ってサービスしてもらった。その後でスチュワーデスさんが「窓際の方にも 1 杯どうぞ」と言ってもう 1 杯アップルジュースをくれたんだそうです。そのことで、おじいさんとおばあさんがどういう風に思ったか。多分、その窓際に立ててあった写真立てってというのはおじいさんとおばあさんにとってとても大事な人の写真だったと思うんですね。その人にも 1 杯ジュースをサービスするっていうアクションが、そのスチュワーデスによって取られた。スチュワーデスが最初にそのことに気づいて、そのことに自分の心を動かして、それで次のアクションとしてジュースをサービスするっていうことをしたんだと思うんです。今日

の一番最初のこのビデオは、そういうことで、よくお母さんの表情とお父さんの表情と、それから医者さんの表情、それから声の質みたいなことに気がつけながら見ていただきたいという風に思います。じゃあ、DVD を²。

どうもありがとうございました。今見ていただいた DVD は、「クローズアップ現代」で放送されたビデオですけれども、コメントを求められて行きました。僕は最初に NHK でビデオを見せられて、えー何て言っているかわからない、本当にそういう風に思いました。子どもが亡くなるっていうのは、大体あんな感じなんですね。私がさっき申し上げた 1972 年の頃は、こういう経験を医療者とか、それから病棟にいる人たちが、もう本当に日常の中で沢山経験した。でも、その頃には、誰もその子どもの死とかグリーフとかいうことについて、考えてみようとしなかったんです。大人のほうでは少しずつ進んでましたけども、でも子どもではそんなことをする人はいなくて、学会でも本当に、誰も集まらないと。セッションを作ってみても、3 人とか 4 人ぐらいしかいないようなところで話し合いをするというようなことだったんですが。それがだんだんだんだん亡くならない時代になり、子どもを亡くすってことの大変さに皆が気づいて、学会とかそれから論文なんかでも取り上げられるようになったのは、とても皮肉なことだなあと感じながら。でもその当時を知っている者としては、なかなかそういう経験のできない今の時代の若い人たちにお話をしなければいけないという風に思っています。

ペイシェント・プリファレンス

今日見ていただいたビデオの中で、亡くなっ

2：NHK「クローズアップ現代」で放映された番組「ある少女の選択 ～“延命”生と死のはざままで～」が紹介される。8 歳で心臓移植。15 歳で人工呼吸器を装着し、腎不全も生じるが、家族と過ごす時間を大切にしたいと在宅ターミナルケアを選んだ華子さんの最後の 1 年を描いた番組。ご両親の葛藤、主治医の前田医師の苦悩、華子さんの静かな決意、さまざまな想いが交錯する。

てったのは華ちゃんっていう女の子なんですが、華ちゃん自身もお父さんを失いお母さんを失うわけですね、自分が死ぬことで。だから、自分が死ぬっていうことは、その、大事な人を亡くすということなんです。でも、亡くしても構わないから少しの時間でも普通の時間が欲しいというのが華ちゃんの選択だった。それは患者さんの選択としてどうするかっていうこと。そういうペイシェント・プリファレンスっていうか患者さんが選択をすること、それがひょっとしたらそれが間違っているかもしれないと思えるような選択でも、患者さんの選択を受け入れる余地があったら受け入れてあげなければならないという時代になってきているわけです。間違った選択だとは思いません。だけど、お父さんが楽しい時間を過ごした後にですね、「なんとか生きてくれ」という風にもすごく怖い顔をして、華ちゃんに「死んだら終わりだ」というような説得に掛かっていました。医療者も、自分の意見を言うわけにはいかないので、3人で決めてもらわなければいけないと言いながら、あのカンファレンスというか話し合いの中に入って進めさせるというようなことをちゃんとしているので、僕はとっても偉いと思います。

死後も続く絆

あの中で、華ちゃんの手紙を読みながら、医療者が声を詰まらせるシーンがありました。もうあの、ああいう状況になったら、気づきとか、それから共感とか、いっぱい押し寄せてくるわけですから、やっぱり涙が出てくるのは仕方がないことなんだろうと思うんですね。僕はあの、泣かなくなったら医者进行を辞めるって言い続けて、この頃は泣かなくて済むようになりました。直接死んでいく子どもの患者さんを診るというようなことが今年になってからはなくなっていましたから。でもこういう追体験みたいなビデオを見ると、

やっぱり思わず涙腺が緩んでしまうんですけども。あのお母さんの立場とお父さんの立場がまたちょっと違ったりして。最後に、亡くなっていくところがありました。お父さんとお母さんが亡くした後に、とても残念だったけど彼女なりに良くやったんだと思うと二人が合意して、話をまとめていましたけども。今後あの夫婦にとって、華ちゃんっていう一人娘がああいう形で亡くなったっていうことはずーっと残るんですよね。そればかりではなくて医療者、えー前田先生とその前田先生のスタッフたちにも、その家族とのつながりが今後ともずーっと続く。華ちゃんの思い出っていうのもこのまんまずーっと残るんです。さっき控室でもちょっとお話をしたんですけども、小児がんは治るようになりました。だから治っていった人たちは自分の未来っていうのを自分で切り開くわけで、医者が何をするということはほとんどありません。病気になったことで治療を受けて、その受けた治療のために副反応が出て色々具合が悪いという場合にはお手伝いをする場合がありますけれども。そうでない場合には、自分で大人になって自分で職業を選んで、で伴侶を選んで結婚するとか、そういうようなことを自分でやっていくわけですね。たまたま結婚式があるから来てほしいとか呼ばれて行ってみる。ああ良かったなって思う。治って良かったなって思うんですけども、亡くなった子どもたちと家族みたいな強いつながりは、なかなかできないんですね、治っていった人の場合には。それがとても不思議なことだなあと感じます。死別後にも続く絆っていうのがあるのです。もうすぐ亡くなってしまうのに華ちゃんが、お父さんの写真を撮っていたシーンがありました。あれはすごく印象的なシーンです。もうすぐ亡くなっていくという人が何で写真を撮るんだろうって思いますね。でも、あの瞬間が華ちゃんにとってはとても大事で、お父さんの笑顔が今、ここでの笑顔が大事っていうことで

シャッターが押された。そういうような、その人間として生きていて、本当に死ぬ瞬間までいろんな風に人とつながって、色んなことに気付いたり、その気付いたことに共感を持ったり、それから共感を持ったことで、感動したことでシャッターを押したり色んなアクションをするっていうのが、人間の「生きる」というようなことなんだと思うんです。

死ぬこと、生きること

死ぬってということと生きるってということは、全く逆のことです。ロバート・キャンベルっていう日本文学をやってる東大の教授がおられます、その人を私たちの俳句の会が呼んで話をしてもらった。その時に、日本語の不思議さっていうような中で、「苦楽」、苦しいっていう字と楽しいっていう字を2つ合わせて「苦楽」っていう熟語を日本人は作っている。それから悲しいっていう字と喜ぶっていう字を書いて「悲喜」っていうような熟語を作っている。苦楽を共にするとか、悲喜こもごもとかそういうようなことで、そういう熟語を何ともなく日常の会話の中で使っているけれども、これはヨーロッパ人とか、欧米人から見ると、非常に特徴的で、自分たちにはない1つのフィーリングだということを言っていました。確かに言われてみるとそうなんですね。生と死とかいうのも、昔から「生死をあきらむるは仏家一大事の因縁なり」というようなことを道元なんか言ってるくらいに、生と死も一緒にくっつけられて「生死(しょうじ)」とかいうようなことで、議論されてきました。生きることが何かとか、死ぬってということがどういうことかっていうことを別々に深く深く追求するっていうような感覚は、どうも私たち日本人は弱いみたい。ギリシャとかですね、そういうところで哲学がすごい勢いで発達したのに比べると、日本はそういう生きることって

どんなことなんだろうとか、それから楽っていうのはなんなんだろう。その「楽」についても、ロバート・キャンベルさんが言ってたんですけども、楽について日本人が明治維新の前に、近代のヨーロッパの思想が入ってくる前の、日本人が考えていたことについて見るには、江戸時代の中期よりも前の人が書いた随想みたいなものを見るとなかなか面白いと。で、沢庵禅師っていうお坊さんが「楽」について考えている。3つにグレード分けして、1番上の楽、それから中の楽、下の楽っていう風にしてそれぞれの例を挙げてる。上の楽は、楽とも感じず苦しいとも感じない、その悟りの境地みたいなものがやっぱり一番上の楽だ。で、下はですね、その分際に応じて、自分の今置かれてる状況を十分だと思えることが一番下の楽っていうことで。中は、いっぱい色んなものを集めて、まあ大体こんなのが楽だっていう風に言っている。だから、苦と楽についてきちんと分けるっていうよりも、ぼーっとしか考えられないっていうのが日本人のもともとのフィーリングっていうか古来のフィーリングらしい。そういう風に思ってみてみると、今日のこの「生死」とか、生きるとか死ぬとかいうことについて、ディスクを見ても、死ぬことと生きることっていうのは本当に表裏一体で、亡くなっても決しておしまいじゃない。お父さんは「亡くなったらもう終わりなんだよ」って言ってました。でも、亡くなった後に、あのお父さんとお母さんのところにですね、華ちゃんのビデオを見た世の中のたくさんの人が、「とても立派でした」とか「お父さんも大変だったんですね」というようなことでお便りが来たり、「華ちゃんは小さいときこんなだったんですよ」と言うような話も他から入ったりする。

記憶の中で生き続ける

それはとても不思議なことです。私たちの聖路

加病院の小児科にも子どもを亡くしたお父さんとお母さんの会が35年前から存在しています。当時たくさんの子どもたちが亡くなったので、お母さん同士・お父さん同士が友達になるっていうことが普通にできてた時代に、これでさよならをするのはとてもつらいから毎年一回集まってお話をしましょうという会ができ上がって、まだ続いています。先月に「つくしの会」の今年度の会があったんですけども、そのちょうど前の日にですね、僕のところに電話が、知らない人から電話がかかってきて、「先生が今から30年前に診ておられた“麻衣ちゃん”っていう女の子のお母さんの連絡先を教えてくださいませんか」という電話がきました。「今個人情報がすごくうるさいのでそんなに簡単に教えられませんけど、どんな御用ですか？」って言ったら、麻衣ちゃんのお母さんは闘病記を何冊かお書きになってて、それを読んでいる人ももちろんいるわけです。麻衣ちゃんは小学校に入って間もなく亡くなったのですが、小学校の同級生だった子のお母さんでした。こちら側から向こうの電話番号を聞いてそれで麻衣ちゃんのお母さんに僕が電話をしました。「御存知ですか、こういう名前の人」って聞いたら、「覚えてない。でもそんな悪い人ではないと思うから電話をしてみようと思います」と言って麻衣ちゃんのお母さんが電話をしたんですね。そしたら、お母さんは麻衣ちゃんがもうすぐ亡くなりそうな状態での小学校の1年生でしたから、無我夢中で生活を送ってたわけです。その電話をかけていらしたお母さんは、麻衣ちゃんがそういう大変な病気で、でも頑張って学校に来てるってということで、麻衣ちゃんの様子を逐一よく見て記憶をしていた。お母さんが電話をしたら、今度東京から九州に引っ越してしまうので、もうお話することもなくなると思うのでと、麻衣ちゃんの小学校の時代のことを細かーく話をしてくれた。麻衣ちゃんのお母さんは「うちの子は30年経ってから、そんなレ

ポートを私のとこにくれました」と言ってました。何ていうんですかね、子どもが亡くなった後、それから子どもじゃなくてもこういうほとんど大人になろうという人、それからひょっとしたら大人も同じかもしれません。亡くなった後に、その人が色んなつながりを使ってですね、様々なメッセージを送ってくるということが実際結構世の中にはあるんですね。でもそのメッセージを、亡くなった人からのメッセージだという風にとらえるかどうかは、その人の気づきの能力と、その気づいたときの反応の仕方によるんだと思います。パワーポイントも持ってきていますので、ちょっとだけせっかくですから。

『わすれられないおくりもの』

色んな絵本が出てきます。日本の死に関する感覚と西洋の死に関する感覚、それから西洋っていってもアメリカとヨーロッパではちょっと違うんです。さよならをして、その人とどういう風につながるかについての感覚をちょっとだけ見てもらいたいと思います。これはイギリスの絵本です。「わすれられないおくりもの」、このアナグマが主人公でだんだん年を取ってきてですね、来年の春はないだろうと思いながら森の仲間にはさよならの手紙を書くんですけども、手紙を書きながらうとうとして夢をみます。今までだめだった脚が大丈夫になって、杖なんかいらなくなってどんどんどんどん走ってる。そのうちに、飛行機が離陸するような感じで体の重みを感じなくなった。それで亡くなってしまうんですが、亡くなってしまったアナグマのことを知って、森の仲間はどうしてもつらい冬籠りに入ります。春になって皆で集まって、アナグマのことをみなで話をする。アナグマがモグラにはこういう切り紙細工を覚えてくれたとか、それからカエルにはスケートを覚えてくれたとか、キツネにはネクタイの結び方を教え

てくれたとか、それからウサギの奥さんにはクッキーの作り方を教えてくれたっていうような話をします。残していったくれた豊かなものに対して思いを馳せるとですね、いなくなった悲しみは消えないのだけれど、ちょっとだけ心の中があたたかくなったっていうお話なんですね。

『チャーリー・ブラウンなぜなんだい』

これはアメリカの、「チャーリー・ブラウンなぜなんだい」。女の子が白血病になる話で、死なない話です。この、スヌーピーのいる病院に入院させられて、退院してくるんですが、帰ってくると抗がん剤で髪の毛がなくなっています。いじめっ子が来る。いじめっ子はやっぱりちゃんと注意してあげないといけないとか。きょうだいは患者さんの陰でつらい思いをしてると。クリスマスのときも、その患者さんにしかプレゼントが来ないっていうようなことです。それで結局戻ってくると、髪の毛もちゃんと生えてる。

『レアの星－友だちの死－』

ヨーロッパのほうが直接的にとらえてるものが多くて、これオランダの本です。レアっていう女の子が入院させられて、この男の子がお見舞いに行くんですね。1 番仲良しだった男の子が毎日お見舞いに行って、お星さまを見ながら、あのお星さまが君のお星さまだよとかいうようなことを言って、過ごしています。ある日家で空をながめて、今日はやけにきれいだって思うと、階下で、下ですね、電話が鳴って、お母さんがレアが死んだっていうことを言いに来ます。それで、あれがレアのお星さまなんだよってお母さんに教えてあげるってお話なんですけど。

『ぼくのいのち』

これは僕が作った本なんですが、入院させられてたということを知って、それで先生に話を聞きに行くんです。雪が降ってくるのを窓から見てた子が今サッカーの選手になってるとか、本を読んでもくれたお姉ちゃんは駅前の喫茶店で働いてるとか。それから一番仲良しだった女の子はどうしたのって聞くと、あの子はなかなか治すのが難しく、もうおうちで最期まで看取られていなくなっちゃったんだよということを先生から聞く。世の中に生まれてくるってということこそがとっても重要だっていうことをその子は感じた。感じたその日の帰り道に、お日さまの光が今までと違って特に明るく感じられたっていう話なんですけど。結局、小さいうちから大事なものをなくす、喪失するっていうような体験をする人たちも、病気の子どもたちの中にはたくさんいるわけです。でもそういう子どもたちが、つき合いは短くても、大事な友達だったっていう思いを持ってくれるようなケアをするのがとても重要なことなんだという風に思います。

『だいじょうぶだよ、ゾウさん』

一番最後に、グリーフの話をちょっと。これは年寄りを見送る、見送り方みたいな絵本なんですけど。これもなかなかいい絵本です。「だいじょうぶだよ、ゾウさん」っていう絵本なんですけど。これの後に、一つ。

『スライド；なみだ』

この本は、あの、僕が退職までに一冊、グリーフケアの絵本を作りたいと思っていて、ちょうど 3.11 の地震が来た日に刷り上がった絵本なんですね。だから、私にとっても思い出深い絵本

なんです。これを読んで、おしまいにしたいと思います。子どもたちが亡くなったり大事な人が亡くなった後に立ち直っていく親たちが、日本の中ではどんなことを手掛かりに立ち直っていくんだろうかって、僕は40年間ずーっと考えていました。達した結論はですね、日本は比較的そういうグリーフケアっていうようなことをしやすい国だって思ったんですね。なぜかっていうと、春夏秋冬がちゃんときれいに巡ってきて、自然にも恵まれて、自然と関係した様々な行事が、例えば明日は七夕です。そういうような行事があって、時間が経つ。時間っていうのはやっぱり命とほとんど同じことです。時間が経つっていうことは生きてるっていうことなので、それを何回も繰り返すことで、楽になっていく人たちがいるんだなあっていう風に思いました。えっと、「なみだ」っていうんですけど。

天国へ行ってしまった
あの子は私の いのちだった。
私たちの幸せの日々は、もう帰らない。
心は引き裂かれ、その傷から
なみだがしみてくる。
痛い。
つめたく暗く 悲しいなみだ
とめどなく流れて落ちる。
あの人はやさしく なぐさめてくれる。
でも 蛍を見てはしゃいでくれた
あの子は いない。
止まらない時の中にいる私。
なみだは流れつづける。
何回目かの秋が来た。
「君のなみだに映る夕焼けがとてもきれいだ」
とあの人が言う。
なみだがあふれる。
ふたりで 雪うさぎを作ってみる。
あの子といっしょにやったように。

また、なみだが出てくる。
私たちのところに 赤ちゃんがくる。
いもうとかしら。おとうとかな。
ねえ、おねえちゃん。
花吹雪に なみだがいっぱい。
おねえちゃんも よろこんでくれている。
おっぱいをあげる。なみだが止まらなくなる。
すぐそばにおねえちゃんがいるのが、わかる。
あなたのいもうとよ。
くもの巣に雨の真珠。また夏が来る。
緑が深くなっていく。
おねえちゃんの大好きだった林檎。
いつからだろう、なみだが
やさしく頬をぬらしてくれるのは。
3人でいても4人。
おねえちゃんのおふん
やきいもは、みんなでわけて食べる。
目にしみるほどの煙じゃないのに
なみだが、ぼろぼろ。
そして、おとうさんも。
遊びに来た娘も孫も帰った。
私だけのしずかな時間がゆっくり流れる。
そんなとき、なみだがかぼれる。
おもいだしてって言うてるのは
またおねえちゃんかな？
おとうさんかもしれない。
白の椿が、なみだでにじむ。
なんてきれいなんだろう。

結局、死別後も、亡くなった人との思い出とか
そういう中で、人間は生きていかないといけない
んですねえ。そのことに気づいてあげるっていう
ことが、そういう人たちのケアをすることの中
で、非常に重要なんだと考えます。えー、7、8
分過ぎてしまいましたが、ご清聴ありがとうございました。

報告・資料

対人場面における強みの活用行動とその意識構造の検討^{1 2}

駒沢 あさみ*・石村 郁夫**

An examination of strengths use for the benefit of other people and its cognitive factors

Asami Komazawa*, Ikuo Ishimura**

Abstract

In consideration of Japan's cultural background, this study focuses on using personal strengths for the benefit of other people. A survey was completed by volunteers, with a sample comprising 135 college students. Factor analysis was conducted and two scales were developed: the strengths use for others scale and cognitive factors of strengths use for others scale. Multiple regression analysis with a covariance structure analysis model revealed that strengths use for others is encouraged by reciprocal values/meaning and fulfillment. A negative attitude toward strengths use for others was found to correlate with fulfillment. Additionally, this study examines similarities as well as differences between prosocial and helping behavior, and the concept of using strengths for others. The results show that although using strengths for others is less normative, it presents reciprocal benefits to both the actor and recipient, so that through application in human care services it helps to buffer the stress on caregivers.

Key words: strengths, interpersonal behavior, positive psychology, human care.

問題・目的

強みに関する研究動向

近年、ポジティブ心理学と呼ばれる領域が注目されるようになり、人間の精神機能のネガティブな面だけでなく、ポジティブな面や心理・社会的資源に対する関心が高まっている（堀毛, 2010）。これまでの心理学は、病理モデルに基づき、主に障害や問題及びそれらに対する治療や改善といった側面に焦点を当ててきたが、ポジティブ心理学では、人間の精神機能の健康的な側面に着目する

ことで、新しい援助の枠組みを提供するとともに、あらゆる人の精神的健康や幸福感を向上させ、人生をより充実したものにすることが期待されている（大竹, 2005）。中でも、個人の強みを特定し、活用することがもたらすポジティブな効果が注目されている（Park, Peterson, & Seligman, 2004）。例えば、強みを活用している人はより幸福で自信があり（Govindji & Linley, 2007; Proctor, Maltby, & Linley, 2009）、よりレジリエンスが高く（CAPP, 2010）、ストレスを感じにくい（Wood, Linley, Maltby, & Hurling, 2010）と言われており、

* 東京成徳大学大学院心理学研究科（Graduate School of Psychology, Tokyo Seitoku University）

** 東京成徳大学応用心理学部（Faculty of Applied Psychology, Tokyo Seitoku University）

受稿2013.12.26 受理2014.7.4

¹ 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第14回大会での発表内容を加筆・修正したものである。

² 調査にご協力頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

こうした知見に基づき、教育や組織産業等の幅広い実践領域において、強みの同定、活用を支援するプログラムが開発されている (Yeager, Fisher, & Shearon, 2011; Padesky & Mooney, 2012)。また、臨床場面においても、強みに関する様々なポジティブ心理療法の技法が開発され、例えばうつ病に対する効果が実証されており、心理療法としてだけでなく予防や再発防止にも役立てられている (Flückinger & Holtforth, 2008; Seligman, Steen, Park, & Peterson, 2005; Duckworth, Steen, & Seligman, 2005; O'Hanlon & Bertolino, 2011)。

強みの定義

強みという概念は曖昧であり、定義することが難しいとされているが (大竹, 2005; Biswas-Diener, 2006)、個人の強みを同定するにあたり、強みを操作的に定義する試みがなされている。例えば、ギャラップ社のストレングス・ファインダーにおいて、強みは“常に完璧に近い成果を生み出す能力”と定義され、生得的な思考や感情パターンとしての“才能”と、後天的に学習した様々な事象に関する知識や自己認識、価値観といった“知識”、及び行動手段である“技術”の3つの構成要素を併せもつことにより、強みとして活用できるとされている (Buckingham & Clifton, 2001)。

一方、Peterson & Seligman (2004) は、強みを“思考、感情、行動に反映されるポジティブな特性”と定義している³。ストレングス・ファインダーとは異なり、彼らは、強みと才能とを区別して捉えており、強みは後天的に学習された特性であることを強調している。

Center for Applied Positive Psychology (CAPP) の Realise2 においては、両者を兼ね、より包括的な捉え方がなされている。また、個人の成長促進に重点が置かれており、強みは部分的には生得的で

あるが環境的な経験によって形成されるといった発達の側面、強みを活用することでエネルギーが感じられ、更に、価値のある高い成果を挙げる力である点が強調されている (Linley & Harrington, 2006; Linley, 2008)。

これらの強みの定義には、(a) すでに存在する特徴であり、その人らしさを構成するものである、(b) 行動、思考、感情に影響を与えるものである、(c) 後天的に発展させることができる、(d) 強みを活かすことにより、個人の力を十分に発揮でき、高い成果をあげることができる、といった共通点があると考えられる。これらを踏まえて本研究では、強みを、“個人の振る舞い、考え方、感じ方に表れる、その人らしさを構成する、学習可能でポジティブな特性”と定義し、強みを活用することでエネルギーを感じ、最大限の力を発揮でき、高い成果をあげることのできるものとする。

我が国の文化的背景

強みに関する研究の多くは主に欧米でなされており、我が国における研究は極めて少ない。強みの研究だけでなく、ポジティブ心理学をベースとした研究自体、近年関心を集めつつあるものの (堀毛, 2010)、未だそれほど多くないのが現状である。その背景の1つには、欧米の国々と日本の文化や価値観の違いがあると考えられる。幸福感や強みといったポジティブな概念は広義で曖昧なことが多く、意味合いや価値の文化間の差異が大きいため、我が国には、欧米諸国の“幸福”や“強み”といった言葉やその意味は、あまりなじみのないものであると言える (Komazawa & Ishimura, 2012)。

個人主義的文化が中心の欧米とは異なり、日本では集団主義的文化の影響を強く受けており、日本人は周囲との関係性や調和を重視するため、個性

³ これに基づき、The Values in Action (VIA) Classification of Strengths と呼ばれる強みの分類マニュアルが作成されている (Peterson & Seligman, 2004)。

的で独自の存在であるよりも、周囲と変わらず同じであることを志向するとされている（黒石・佐野, 2007; 黒石・佐野, 2008）。そのため、日本人は“ふつう”であることに対しての欲求が高いと言われており、他者と同じように行動しようとする傾向が強い人ほど周囲から逸脱する不安や失敗への不安が強く、積極性が弱いことが示されている（元橋, 1993）⁴。また、谷（2010）は、こうした傾向と幸福感との関連を検討し、周囲と同じであることを好む傾向が強いほど、活動的快の感情を感じにくいことを明らかにしている。つまり、“ふつう”を好む傾向が強すぎることは、人並みであればよいというより消極的な姿勢であると言え、活動性やそれに伴う快感情が喚起されにくいと考えられる。

こうした本邦の文化的背景を考慮すると、欧米と同様に強みを活用しようすることは、個性を強調し、“ふつう”や“人並み”から逸する行動といった印象が強く、日本人にとってなじみの薄いものであると言える。元来、個として突出することよりも、周囲との調和を重んじる我が国においては、“他者と調和する”という視点を加えた独自の強みの捉え方、活用の仕方が求められる。

他者のために自分の強みを活かす行動

集団主義文化においては、他者との調和を重視し、相手を思いやり、他者のために行動することが、ひいては自分自身のためにもなると言える。幸福感や人生満足感等を向上し、よりよい生き方を目指す上で、周囲の他者の存在は大きな影響をもたらすと考えられる（遠藤, 1995）。日本社会においては、他者との関係性を安定的に保つ傾向が強く、欧米文化と比較しても身近な人との関係が良好であることが幸福に与える影響がより大きい

ことも示されている（Uchida, Kitayama, Mesquita, Reyes, & Morling, 2008）。

また、2011年3月の東日本大震災後には、“絆”という言葉が多く聞かれるようになった⁵ことから、他者の福利や幸福は、自分自身のものと同様に大切であることが読み取れる。これまで“被災地・者のために”と被災地の復興や被災者の福利のための活動が盛んに行われてきたが、現地でのボランティアや、節電、募金など、その支援の仕方は人それぞれであり、自分にできることとして、個人のもつ資源や特性に合わせてそれぞれの得意な行動を選択し、実行していると考えられる。これはまさに、無意識的に強みが活用されていると読み替えることもできる。強みを意識的に活用することで、“自分らしさ”を感じ、“高い成果”を残すことができると言われていることから（Linley, Willars, & Biswas-Diener, 2010）、ヒューマン・ケア・サービスにおける、強みを活かした援助を促進することで、援助者自身のモチベーションの向上や、バーンアウトや共感疲労等の予防、継続的な援助にも繋がることが期待できる。

以上のように、人との関係の中で意識されることなく活用されている強みを意識化し、より洗練されたものにしていくことが、相手にとっても行為者自身にとっても価値や意味のある、相互利益的な“よりよい”生き方に繋がっていくものと考えられる。

他者のために強みを活かす行動と

その類似概念との比較検討

本研究で取り上げる“他者のために強みを活かす行動”の概念的位置付けを明確にするために、類似概念と考えられる向社会的行動や、愛他的行動、援助行動との差異について以下にまとめる。

⁴ 元橋（1993）は、日本人の“ふつう”を求める傾向には、自己が周囲から外れないように他者と同じように行動しようとする傾向（人並み志向）と、個人間に差がつかないように特定の個人が突出することを抑えようとする傾向（平準化志向）があるとして両者を区別している。

⁵ “絆”は、財団法人日本漢字能力検定による2011年の“今年の漢字”にも選ばれている。

まず、一般に向社会的行動とは、外的な報酬を目的とせず、困窮者の利益を意図し、コストを払い自発的になされる援助行動であり、かつ社会的な価値を有するものと定義することができる（川島, 1991；菊池, 1984；鍋倉・村上・西村, 2010）。愛他的行動も同様に、外的な報酬を期待せずに他者の利益や福祉のためになされる自発的な自己犠牲行動と定義されている（Macaulay & Berkowitz, 1970；上村・下田・近藤・森谷, 1997；江口・安里・川島, 200；宮里・神山・鈴木・石井, 2009）。また、鍋倉・村上・西村（2010）によれば、行動することで生じた他者の利益が自己の利益より高いことが条件の1つとされている行動である。他方、援助行動は、困窮者の救済や支援を目的に、コストを払って自発的に行う行動とされ、人助け行動全般を指すことが多い（妹尾・高木, 2003；鍋倉・村上・西村, 2010）。しかしながら、これらの定義は非常に曖昧で、互いに酷似したものも多く、研究者によってその使い方が異なるため、明確に弁別できていないのが現状である（江口・安里・川島, 2003；鍋倉・村上・西村, 2010）。

“他者のために自分の強みを活かす”という行動は、他者の利益を求めて行う点など、上述の類似する行動と重複するところが多いと考えられる。しかしながら、その相違点として、強みを活用することの背景にある意識や態度と、向けられる対象の2点が挙げられる。

まず1点目に、他者のために強みを活かす行動と上述の類似概念の間には、行動の背景にある意識や態度に違いがあると考えられる。向社会的行動や愛他的行動、援助行動は、その定義において自己犠牲的な側面が強調されており、自己よりも他者の利益を優先する行動として用いられる。一方、強みは自分らしさやエネルギーを感じつつ、高い成果を挙げることでできるものであるという定義を鑑みると、他者のために自分の強みを活用する行動は、個人の心理・社会的資源を用いて、

自分自身のためにも他者のためになる行動をしようとするものであり、自己犠牲を払って他者の利益だけを追求しようとする行動とは異なるものと言える。強みを他者のために活かす行動は、その背景にある意識・態度に自己犠牲的側面よりも行為者本人が自分らしさやエネルギーを感じるといった主体的な側面が強調されると考えられる。

2点目に、他者のために強みを活かす行動と、上述した類似概念では、その行動の対象に違いがあると考えられる。向社会的行動、愛他的行動と援助行動の対象は、困窮者や援助を必要としている人である（江口・安里・川島, 2003）。一方で、他者のために自分の強みを活かす行動は、あくまで強みの活用に関心を当てているため、その対象は困窮者に限らず、より幅広い対象をもつものと考えられる。つまり、相手の成長を促す、よりよい生き方のために行動するといった“プラス・アルファ”の効果のための行動を含む、より包括的な概念であり、“人を-5から0に引き上げるだけでなく、+2から+6に成長させる”（Seligman & Csikszentmihalyi, 2000）というポジティブ心理学的な考えに基づく行動であると言える。こうした行動は、個人内・個人間のみならず、集団・社会全体にポジティブな相乗効果をもたらすことが期待できる。

本研究の目的

以上のことを踏まえて本研究では、これまでの強みの活用概念に、“他者のために”という側面を付け加えることで、我が国の文化的背景に即した、対人場面における強みの活用という新たな強みの活用を提案する。まず、他者のために強みを活用する行動の指標となる測度を作成する。更に、他者のために強みを活用する行動の背景にある意識や態度を抽出し、行動との関連の検討を行うことを目的とする。その上で、他者のために自分の強みを活かす行動と類似概念の背景にある意

識の差異を検討し、概念の整理を行うこととする。

方 法

尺度作成のための予備調査

まず、強みの定義 (Buckingham & Clifton, 2001; Peterson & Seligman, 2004; Linley & Harrington, 2006; Linley, 2008) や、StrengthsFinder 2.0、VIA-IS, Realise2 といった強み同定のための心理検査、類似概念の定義や尺度 (例えば妹尾・高木 (2003) のボランティア活動継続動機測定尺度や、相川・吉森 (1995) の心理的負債感尺度) を参考に、他者のために自分の強みを活かすことにまつわる項目候補を作成した。その後、KJ 法 (川喜田, 1967) を用いて項目候補のカテゴリー化を行い、本研究における強みの定義を参照しながら項目を選別し、内容を検討した。項目候補の作成後、関東地方の大学院に在籍する大学院生 13 名への予備調査を実施し、更に大学教員 1 名と大学院生 2 名とともに討議を重ね、表面的・内容的妥当性の検討を行った。更なる項目候補の削除・修正を施し、他者のために自分の強みを活かすことに関する 47 項目候補を精選した。その上で、行動にまつわる“他者のために自分の強みを活かす行動尺度” (以下、行動尺度と表記する) 27 項目候補、行動の背景にある意識や態度にまつわる“他者のために自分の強みを活かす行動の意識・態度尺度” (以下、意識・態度尺度と表記する) 20 項目候補を区別し、2 つの独立した尺度候補を作成した。

本調査

調査時期 本調査は 2012 年 1 月に実施された。

調査協力者 関東地方の私立大学における心理学の講義時間中に、心理学部もしくは薬学部に所属する大学生 135 名 (男性 47 名、女性 68 名、無記入 20 名、平均年齢 20.28 ± 1.84 歳) の協力を得て実施された。

調査手続き 調査協力者には、事前に研究概要や目的、個人情報の保護、調査承諾・辞退の自由等について口頭及びフェイスシートにて明示し、十分なインフォームドコンセントを取り、同意が得られた場合にのみ調査協力を依頼した。質問紙は、調査責任者が一斉に配布・回収した。尚、本研究は、筆者の所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施された (承認番号: 11-1-18)。

調査内容 1. 他者のために自分の強みを活かす行動: 予備調査を経て作成された行動尺度候補に対して“全く当てはまらない”、“あまり当てはまらない”、“どちらでもない”、“やや当てはまる”、“よく当てはまる”の 5 件法で回答を求めた。

2. 他者のために自分の強みを活かす行動の意識・態度: 予備調査を経て作成された意識・態度尺度候補に対して“全く当てはまらない”、“あまり当てはまらない”、“どちらでもない”、“やや当てはまる”、“よく当てはまる”の 5 件法で回答を求めた。

3. 向社会的行動: 類似概念との比較検討のため、行動レベルの項目からなる、向社会的行動尺度 (大学生版) (菊池, 1988) を使用した。本尺度は、“列に並んでいて、急ぐ人のために順番をゆずる”、“お店で、渡されたおつりが多かったとき、注意してあげる”等の 20 項目で構成され、各項目に対し“したことがない”、“1 度したことがある”、“数回したことがある”、“しばしばした”、“いつもした”の 5 件法で回答を求めた。尺度得点は、単純合計点が用いられている。

4. 援助行動の意識: 同様に、類似概念との比較検討の目的で、認知レベルの項目からなる援助規範意識尺度 (箱井・高木, 1987) を用いた。援助規範意識尺度は、“返済規範意識”、“自己犠牲規範意識”、“交換規範意識”、“弱者救済規範意識”の 4 つの下位因子で構成された尺度であり、“自分に好意を示してくれたからといって、自分も好意を示してお返しをする必要はない”、“自分の利益

よりも相手の利益を優先して、手助けをすべきである”等、逆転項目12項目を含む29項目からなる尺度である。各項目に対し、“非常に賛成する”、“賛成する”、“どちらともいえない”、“反対する”、“非常に反対する”の5件法で回答を求めた。尺度得点及び下位尺度得点は、単純合計点が用いられている。

結 果

他者のために自分の強みを活かす行動尺度と

その意識・態度尺度の尺度分析

他者のために自分の強みを活かす行動尺度 行動尺度候補に対し、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を施したところ、1因子構造が妥当であると考えられたため、尺度の利便性を考慮して、因子負荷量の高い7項目を採択した（Table 1 参照）。信頼性を検討するため、Cronbachの α 係数を算出したところ、 $\alpha = .93$ と高い数値が得られ、十分な内的整合性が示された。

他者のために自分の強みを活かす行動の意識・態度尺度 次に意識・態度尺度候補に対して、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を施した。その結果、3因子構造が妥当であると考えられ、因子負荷量の低い項目を削除し、各因子5項目、

計15項目の尺度を構成した。各因子は含まれる項目の内容から“人のために強みを活かす行動に対する意味付け”因子（以下“意味付け”因子と表記する）、“人のために強みを活かす行動に対する充足感”因子（以下“充足感”因子と表記する）、“人のために強みを活かす行動に対する否定的態度”因子（以下“否定的態度”因子と表記する）と命名した。因子分析の結果はTable 2に示した通りである。Cronbachの α 係数は尺度全体では $\alpha = .84$ 、下位因子においては、“意味付け”因子は $\alpha = .89$ 、“充足感”因子は $\alpha = .94$ 、“否定的態度”因子は $\alpha = .81$ であり、十分な内的整合性が示された。

他者のために自分の強みを活かす行動と

その意識構造の検討

行動と意識・態度の両尺度の相関係数を算出したところ、 $r = .62$ ($p < .001$)と中程度の相関が見られた。また、意識・態度尺度の下位尺度ごとにみると、“意味付け”は $r = .61$ ($p < .001$)、“充足感”は $r = .65$ ($p < .001$)であり、どちらも中程度の相関が見られた。一方、“否定的態度”は5%水準で有意な相関は検出されず、行動と直接的な相関関係は認められなかった。

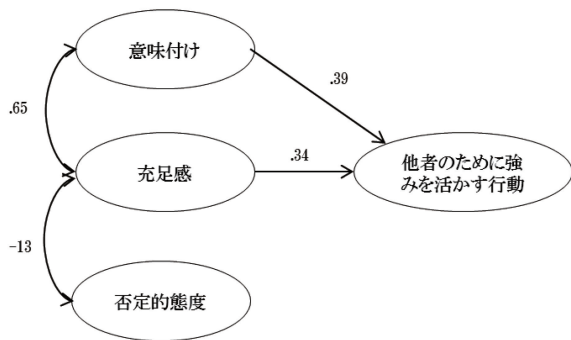
更に、他者のために強みを活かす行動とその背景にある意識・態度の関係性を検討するために、行動尺度項目及び意識・態度尺度項目を観測変数とし、上記の因子分析によって得られた“意味付け”、“充足感”、“否定的態度”を潜在因子として設定し、共分散構造分析式モデルによる重回帰分析を実施した（Figure 1参照）。その結果、モデルの適合度は、 $\chi^2(df:205) = 362.13$ ($p < .001$)、 $\chi^2/df = 1.77$ 、GFI = .81、AGFI = .76、CFI = .66、RMSEA = .08であり、おおむね許容されうる範囲の値が得られた。

Table 1 他者のために自分の強みを活かす行動尺度の因子分析結果と記述統計量

番号	項目内容	Mean	SD	負荷量
11	日常的な活動のなかで、容易に自分の強みを他者のために使っている	2.75	(1.00)	.82
20	日々行っている強みを活かした活動のなかに、他者のために意図したものがある	2.84	(1.06)	.82
16	相手のためになるように工夫して自分の長所を活かしている	3.02	(1.08)	.81
23	自分の強みを多くの人々のために使っている	2.61	(1.01)	.80
19	状況に応じた方法で自分の強みを相手のために使うことができる	3.14	(1.04)	.80
9	普段の生活の中で様々な方法で自分の強みを他者のために使っている	2.69	(1.04)	.79
13	他者のために自分の強みを使う方法をよく知っている	2.66	(1.03)	.79
計		19.71	(7.25)	
		寄与率 = 64.51		

Table 2 他者のために自分の強みを活かす行動の意識・態度尺度の因子分析結果と記述統計量

番号	項目内容	Mean (SD)	負荷量		
			意味付け	充足感	否定的態度
19	自分は強みを他者のために生かすことはお互いにとって価値があると思う	3.17 (1.09)	.86	-.03	-.12
18	自分の強みは周りの人にとって価値があると思う	2.71 (.98)	.83	-.03	.03
11	相手のために自分の強みを活かすことで相手にとって良いことがあると思う	3.34 (1.01)	.72	.04	.05
17	自分のいいところは是非世の中のために役立てようと思う	3.05 (1.04)	.70	.12	.06
10	相手のために自分の強みを活かすことで、自分が成長していると実感する	3.19 (1.08)	.56	.27	.03
5	自分の強みを他者のために生かすと充実感がある	3.42 (1.13)	.00	.94	.05
3	自分の得意なことを他者のためにするのは楽しい	3.45 (1.09)	.02	.90	.01
4	自分の長所を他者のために活かすことができると、エネルギーが湧く	3.27 (1.18)	.06	.87	-.11
2	自分の強みを他者のために使うことで、自分らしさを感じる	3.12 (1.20)	.30	.60	.03
9	人のためでも、自分の強みを活かすことで生き生きする	3.21 (1.03)	.31	.56	.01
7	自分の強みを、自分のためでなく他者のために使うのはもったいない	2.29 (1.04)	.11	-.16	.79
16	知らない人のために自分の強みを活かそうとは思わない	2.88 (1.09)	-.22	.23	.78
8	自分の得意なことでも、人のためにと意識すると疲れる	2.91 (1.15)	.05	-.11	.67
6	自分の得意なことでも、他者のために何かしようとするのは荷が重い	2.63 (1.08)	.06	-.07	.65
13	相手が助けを必要としていなければ、とりたててその人のために自分ができることをしようとは思わない	3.29 (1.21)	.04	.09	.55
計		45.91 (16.41)	寄与率=63.83		



a) 観測変数と誤差は省略してある。

Figure 1 他者のために自分の強みを活かす行動とその意識・態度の重回帰モデル

他者のために自分の強みを活かす行動と

類似概念との比較検討

他者のために自分の強みを活かす行動及びその意識・態度、向社会的行動、援助規範意識のそれぞれの関連を検討するために相関分析を行った (Table 3 参照)。その結果、他者のために自分の強みを活かす行動尺度と、同じく他者に対する行

動である向社会的行動尺度との相関係数は $r = .41$ ($p < .01$) であり、十分な併存的妥当性が確認された。一方、意識・態度尺度は、尺度全体としては援助規範意識尺度と間に 5% 水準で有意な相関は検出されなかった ($r = .13$, $p > .05$)。各下位因子をみると、“意味付け”は“返済規範意識” ($r = .18$, $p < .05$)、“自己犠牲規範意識” ($r = .37$, $p < .01$)、“弱者救済規範意識” ($r = .27$, $p < .01$) との間に有意な正の相関が、“交換規範意識” ($r = -.22$, $p < .05$) との間に有意な負の相関が認められた。“充足感”は、“自己犠牲規範意識” ($r = .39$, $p < .01$)、“弱者救済規範意識” ($r = .20$, $p < .05$) との間に有意な正の相関が、“交換規範意識” ($r = -.19$, $p < .05$) との間に有意な負の相関が認められた。“返済規範意識”との間には有意な相関は検出されなかった ($r = .15$, $p > .05$)。“否定的態度”は、“自己犠牲規範意識” ($r = -.40$, $p < .01$)、“弱者救済規範意

識” ($r = -.21, p < .05$) との間には有意な負の相関が認められた。“返済規範意識” ($r = -.14, p > .05$) と“交換規範意識” ($r = .12, p > .05$) との間には有意な相関は検出されなかった。

また、他者のために自分の強みを活かす行動尺度は、意識・態度尺度との間に有意な相関関係が見られたが ($r = .62, p < .01$)、援助規範意識尺度との間には5%水準で有意な相関関係は検出されなかった ($r = .13, p > .05$)。意識・態度尺度及び援助規範意識尺度の各下位因子との相関係数を見ると、意識・態度尺度の“意味付け” ($r = .61, p < .01$)、“充足感” ($r = .65, p < .01$)、援助規範意識尺度の“自己犠牲規範意識” ($r = .24, p < .01$) との間に1%水準で有意な正の相関が、援助規範意識尺度の“交換規範意識” ($r = -.19, p < .05$) との間に5%水準で有意な負の相関が確認された。

一方で向社会的行動尺度は、他者のために自分の強みを活かす行動の意識・態度尺度との間に $r = .29$ ($p < .01$)、援助規範意識尺度との間に $r = .27$ ($p < .01$) の弱い相関が確認された。意識・態度尺度及び援助規範意識尺度の各下位因子との相関係数を見ると、意識・態度尺度の“意味付け” ($r = .40, p < .01$)、“充足感” ($r = .29, p < .01$)、援助規範意識尺度の“自己犠牲規範意識” ($r = .34, p < .01$) との間に1%水準で有意な相関

が確認された。それ以外の下位因子との間には有意な相関は検出されなかった。

考 察

本研究では、他者のために自分の強みを活かすという行動とその意識・態度の測度を作成するために、予備調査によって表面的、内容的妥当性を検討し、項目候補を精選した上で本調査を実施し、最終的に因子分析によって1因子7項目からなる他者のために自分の強みを活かす行動尺度と、3因子15項目からなる意識・態度尺度が構成された。両尺度とも内的整合性の観点から十分な信頼性が確認され、行動尺度においては向社会的行動尺度との十分な併存的妥当性が示された。これにより、他者のために自分の強みを活かす行動と、類似する行動である向社会的行動との弁別性の一部が示されたと言える。

他者のために自分の強みを活かす行動と

その意識構造

分析の結果、他者のために自分の強みを活かす行動の背景には、その行動に対する相互利益的な価値の意識や意味付け、満足感や自分らしさ及びエネルギーの高揚といった主体的な充足感が存在し、行動を促進する動機として機能していること

Table 3 各尺度および下位因子間の相関係数

	他者のために強みを活かす行動	意識・態度				向社会的行動	援助規範意識				
		合計	意味付け	充足感	否定的態度		合計	返済規範意識	自己犠牲規範意識	交換規範意識	弱者救済規範意識
他者のために強みを活かす行動	1										
意識・態度要因	.62 **	1									
意味付け	.61 **	.85 **	1								
充足感	.65 **	.82 **	.76 **	1							
否定的態度	-.11	.31 **	-.08	-.20 *	1						
向社会的行動	.41 **	.29 **	.40 **	.29 **	-.14	1					
援助規範意識	.13	.15	.31 **	.27 **	-.30 **	.27 **	1				
返済規範意識	.08	.11	.18 *	.15	-.14	.15	.84 **	1			
自己犠牲規範意識	.24 **	.18 *	.37 **	.39 **	-.40 **	.34 **	.62 **	.27 **	1		
交換規範意識	-.19 *	-.15	-.22 *	-.19 *	.12	-.06	.27 **	.08	.02	1	
弱者救済規範意識	.07	.14	.27 **	.20 *	-.21 *	.14	.76 **	.68 **	.23 **	-.09	1

** $p < .01$, * $p < .05$

が明らかにされた。こうした意識・態度は、先行研究における強みの定義（Linley, 2008 ; Peterson & Seligman, 2004）と一致しており、これにより構成概念妥当性の一部が示されたと言える。また、援助行動の 1 つとされるボランティア活動の動機には利他的動機と利己的動機が存在しているとされるが（伊藤, 2011）、他者のために自分の強みを活かす行動の動機としては、むしろ相互利益的な価値や、行為者自身の主体的な側面が強調されていることが示された。

一方で、こうしたポジティブな意識とともに、“面倒だ”、“もったいない”といったネガティブな意識も同時に存在していることがわかった。ボランティア活動への参加動機の構造を検討した松本（1999）は、愛他性や自己成長といった積極的な動機だけでなく、他者からの勧誘や依頼、義務感による受動的、他律的な参加理由といった消極的な動機を見出しており、本研究において見出されたネガティブな意識も受動的で消極的なものである可能性が考えられる。また、主体的な側面の強調される他者のために強みを活かす行動においては、自らのエネルギーの節約や資源を守ろうとするような、負の主体的側面と捉えることもできる。しかしながら、行動に対するネガティブな態度は、他者のために強みを活かそうとする行動に直接的な影響は及ぼしておらず、むしろ満足感や高揚感、自分らしさといった行動のモチベーションとなる意識の低さと相互的な関係にあることが明らかとなった。これらのことから、他者のために自分の強みを活かす行動を促進させる際には、ネガティブな意識や態度を転換させることによりモチベーションの向上を図るよりも、行動に対する価値を模索することや、自分らしさの感覚や高揚感、満足感を意識することに焦点を当てることが有効であることが示唆された。

他者のために自分の強みを活かす行動と

類似概念との比較検討

相関分析の結果、他者のために自分の強みを活用する行動と向社会的行動は、行動レベルではある程度類似したものではあるが、その背景にある意識に違いがあることが示された。それぞれの行動の背景にある意識や態度をみると、他者のために自分の強みを活かす行動は、その意識・態度尺度との間には有意な中程度の正の相関が見られたが、援助規範意識尺度との間には有意な相関は見られなかった一方、向社会的行動は、援助規範意識尺度、他者のために自分の強みを活かす行動の意識・動機尺度の両者との間に有意な弱い正の相関が見られた。つまり、他者のために自分の強みを活かそうとすることは、向社会的行動とは異なり、こうあるべき、こうしなければならないといった規範意識は薄く、より自由度の高い意識で主体的に行う行動であると言える。また、満足感やエネルギーの高揚感、自分らしさといったポジティブな感覚は、向社会的行動と比較して、他者のために強みを活かす行動との関連が強いことが示されたことから、強みを他者のために活かすことにより、行為者自身に対するポジティブな効果も期待できる。

更に、他者のために自分の強みを活かす行動においては、援助規範意識尺度の下位因子である“交換規範意識”との間に有意な弱い負の相関が見られたことから、向社会的行動とは異なり、援助に対して見返りを期待したり、自分に有利になるような援助なら行うべきなどといった意識は低く、相互利益的な意識をもって行動するといった傾向があると推察される。また、“返済規範意識”及び“弱者救済規範意識”は、他者のために自分の強みを活かす行動尺度とその意識・態度尺度及び各下位因子とのいずれの間にも 1 % 水準で有意な相関が確認されず、援助行動などの類似概念とは異なり、他者のために自分の強みを活かす行動

は、相手の行為に対して返報しなければならないという負担を感じる必要がなく、困窮者に限らず、広く他者に向けて行う行動であることを示していると言える。

本研究の位置づけと今後の展開

本研究は、対人場面において“他者のために”強みを活かすといった行動に焦点を当て、我が国の文化的背景を考慮した新たな強みの活用の方向性を示したと言える。また、他者のために強みを活用するという概念は、これまでの”他者のためにする行動”に関する研究に相互利益的な価値を付け加えることができ、援助行動やボランティア等、幅広い分野、領域において応用可能な知見が得られた。

今後は、他者のために強みを活かす行動が、強みの活用に焦点を当てた先行研究 (Park, Peterson, & Seligman, 2004) と同様に、行為者自身に幸福感や精神的な健康に与えるのかどうかの検討が必要であると考えられる。また、他者のために自分の強みを活かす行動が、ヒューマン・ケアにおける共感疲労やバーンアウト等の問題を改善する一助になることが予想されるため、こうした行動を促進させる介入法を開発し、その効果を検討することが今後求められるだろう。

引用文献

- 相川充・吉森衛 (1995). 心理的負債刊尺度の作成の試み 社会心理学研究, **11**, 63-72.
- Biswas-Diener, R. (2006). From the equator to the north pole : a study of character strengths. *Journal of Happiness Studies*, **7**, 293-310.
- Buckingham, M., & Clifton, D. O. (2001). *Now, discover your strengths*. New York : The Free Press.
- (バッキンガム, M. & クリフトン, D. O. 田口俊樹 (訳) (2001). さあ, 才能 (じぶん) に目覚めよう—あなたの5つの強みを見出し, 活かす 日本経済新聞出版社)
- CAPP(2010). *Technical manual and statistical properties for Realise 2*. Coventry : CAPP.
- Duckworth, A. L., Steen, T. A., & Seligman, M. E. P. (2005). Positive psychology in clinical practice., *Annual Review of Clinical Psychology*, **1**, 629-651.
- 江口知子・安里勝人・川島一夫 (2003). 貸与行動における向社会的判断と愛他的判断 信州大学教育学部紀要, **108**, 91-99.
- 遠藤由美 (1995). 精神的健康の指標としての自己をめぐる議論 社会心理学研究, **11**, 134-144
- Flückiger, C., & Holtforth, M. G. (2008). Focusing the therapist's attention on the patient's strengths : A preliminary study to foster a mechanism of change in outpatient psychotherapy. *Journal of Clinical Psychology*, **64**, 876-890.
- Govindji, R., & Linley, P. A. (2007). Strengths use, self-concordance, and well-being : Implications for strengths coaching and coaching psychologists. *International Coaching Psychology Review*, **2**, 143-153.
- 箱井英寿・高木修 (1987). 援助規範意識の性別, 年代, 及び, 世代間の比較 社会心理学研究, **3**, 39-47.
- 堀毛一也 (2010). ポジティブ心理学の発展 現代のエスプリ, **512**, 5-27.
- 伊藤忠弘 (2011). ボランティア活動の動機の検討 学習院大学文学部研究年報, **58**, 35-55.
- 川喜田二郎 (1967). 発想法—創造性開発のために 中公新書 中央公論社
- 川島一夫 (1991). 愛他行動における認知機能の役割

- その情況要因と個人内要因の検討 風間書房
- 菊池章夫 (1984). 向社会的行動の発達 教育心理学年報, **23**, 118-127.
- 菊池章夫 (1988). 思いやりを科学する一向社会的行動の心理とスキル川島書店
- Komazawa, A., & Ishimura, I. (2012). An explorative study of personal strengths and weaknesses among Japanese college students : On a perspective of using strengths for other people. Poster presented at the 6th European Conference on Positive Psychology, 325.
- 黒石憲洋・佐野予理子 (2007). 他者が「ふつう」であることの意味 (3) 一人並み志向・平準化志向との関連から 日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集, **16**, 164-165.
- 黒石憲洋・佐野予理子 (2008). 被分配者における「ふつう」認知と感情状態一人並み志向・平準化志向及び集団主義との関連 日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集, **17**, 132-133.
- Linley, P. A. (2008). *Average to A+: Realising strengths in yourself and others*. Coventry : CAPP Press.
- Linley, P. A. & Harrington, S. (2006). Playing to your strengths. *The Psychologist*, **19**, 86-89.
- Linley, P. A., Willars, J., & Biswas-Diener, R. (2010). *The strengths book : be confident, be successful, and enjoy better relationships by realising the best of you*. Coventry : CAPP.
- Macaulay, J. R., & Berkowitz, L. (1970). *Altruism and helping behavior*. New York : Academic Press.
- 松本耕二 (1999). スポーツ・ボランティアの類型化に関する研究—障害者スポーツイベントのボランティアに着目して— 山口県立大学社会福祉学部紀要, **5**, 11-19.
- 宮里智恵・神山貴弥・鈴木由美子・石井眞治 (2009). 児童の愛他的態度養育のための継続型直接体験授業の効果 日本教育工学論文誌, **33**, 23-30.
- 元橋豊秀 (1993). 人並み志向と平準化志向 社会心理学研究, **9**, 1-12.
- 鍋倉正・村上達也・西村多久磨 (2010). 小中学生における新たな社会的行動尺度の作成 (1) 日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集, **19**, 29.
- O'Hanlon, B., & Bertolino, B. (2011). *The therapist's notebook on positive psychology : Activities, exercises, and handouts*. New York : Routledge.
- 大竹恵子 (2005). ポジティブ心理学から見た新しい「パーソナリティ」の提案: 人間のポジティブな人格特性 (character strengths) について 日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集 **14**, 17-18
- Padesky, C. A., & Mooney, K. A. (2012). Strengths-based cognitive-behavioral therapy : A four-step model to build resilience. *Clinical Psychology and Psychotherapy*, **19**, 283-290.
- Park, N., Peterson, C., & Seligman, M. E. P. (2004). Strengths of character and well-being. *Journal of Social and Clinical Psychology*, **23**, 603-619.
- Peterson, C. & Seligman, M. E. P. (2004). *Character strengths and virtues : A handbook and classification*. New York : Oxford University Press.
- Proctor, C., Maltby, J., & Linley, P. A. (2009). Strengths use as a predictor of well-being and health-related quality of life. *Journal of Happiness Studies*, **10**, 583-630.
- Seligman, M. E. P., & Csikszentmihalyi, M. (2000). Positive psychology : An introduction. *American Psychologist*, **55**, 5-14.
- Seligman, M. E. P., Steen, T. A., Park, N., & Peterson, C. (2005). Positive psychology progress : Empirical validation of interventions. *American Psychologist*, **60**, 410-421.
- 妹尾香織・高木修 (2003). 援助行動経験が援助者自身に与える効果—地域で活動するボランティアに見られる援助成果 社会心理学研究, **18**, 106-118.
- 谷芳恵 (2010). 人並み志向と幸福度の関連 日本教育心理学総会発表論文集, **52**, 238.
- Uchida, Y., Kitayama, S., Mesquita, B., Reyes, J. A. S., & Morling, B. (2008). Is perceived emotional support beneficial? : Well-being and health in independent and interdependent cultures. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **34**, 741-754.
- 上村佐知子・下田裕子・近藤直樹・森谷良子 (1997). 訓練場面における痴呆患者の愛他的行動について 理学療法学会特別号 (第32回埼玉), **24**, 549.
- Wood, A. M., Linley, P. A., Maltby, J., & Hurling, R.

(2010). Use of positive psychological strengths leads to less stress and greater self-esteem, vitality, and positive affect over time : A three-wave longitudinal study and validation of the strengths use scale.

Manuscript submitted for publication.

Yeager, J. M., Fisher, S. W., & Shearon, D. N. (2011). *SMART strengths : Building character, resilience and relationships in youth*. New York : Kravis Publishing.

報告・資料

「箱庭－物語（サンドプレイードラマ）法」を 喪の仕事に役立てるための一試み

小森 國寿¹⁾・菅 佐和子²⁾

An application of the Sandplay – Drama Technique to Mourning Work

Kunihisa Komori¹⁾, Sawako Suga²⁾

Abstract

This study aims to apply the Sandplay-Drama Technique to the process of mourning work relating to suicide. Authors set up a 6-session-course with 2 weeks interval between each session, and requested the participant to create sandplay works and stories based on these works. The result indicated that the course promoted his mourning work as well as the conventional sandplay therapeutic process, simultaneously. However, the setting could lead to a psychological crisis and an incomplete working through while it could also facilitate the internal process.

Key words : sandplay-drama technique, mourning work, suicide.

【問題と目的】

箱庭療法は、内側が青く塗られた縦57センチ、横72センチ、高さ7センチの箱の中で、砂やミニチュア玩具を使って自分の内的イメージにぴったりの世界を構成することで行う心理療法である（Kalf, 1966）。箱庭－物語（サンドプレイードラマ）法は、箱庭を作ってから、その作品を元に空想物語を作成する技法である（三木, 1977；東山, 1982；片坐, 1984, 1990；安福, 1990；岡田, 1993；菅, 2003；長谷川, 2011）。

箱庭と物語作りを組み合わせる意味について、東山（1994）は、箱庭制作時に無意識の内容が漏れ出すぎて支障をきたすことがあるため、ドラマを作ることによって自我を関与させ、無意識の内容を意

識化、整理、集約させて安全性を確保するためだと述べている。また、語るのではなく、筋道をたてて「書く」という方法を選んだのは、箱庭の多くの発展可能性の中から自分の内的課題を選択させるためだと言う。さらに、作品をシリーズとして見る態度は、作成者の人間としての変容や発展可能性に寄与することや、見守り手がより多面的に箱庭作品を理解することにもつながる（河合, 1969）。ここに自我を関与させることによって作成者の内的課題を動的に、かつ道筋をつけて理解することが期待される。

この技法はきわめて興味深いものだが、この技法を用いた治療報告はまだほとんど見られない。筆者らは、この技法を「治療」としてではなく、自己探求のための方法として発展させたいと考え

¹⁾ 陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地（Japan Ground Self Defense Force, Takigahara Camp）

²⁾ 関西看護医療大学（Kansai University of Nursing and Health Sciences）

受稿2012.6.11 受理2014.10.28

た。そのため、当分は「研究」として位置づけ、『現在、自己の内界を整理、探究したいというニーズを持ち、この技法への関心を持つ健常者』を被験者として、期間（約3か月）・回数（6回）限定の体験コースを設定した。枠は、物語が集結するまでの平均的な回数（片坐, 1984）を考慮した上で、概ね四半期に沿ったリズムがある日本社会での一区切りとなる期間内で内的作業に集中できるよう設定した。ただし、物語作成にはエネルギーを費やすことが予想されたため、隔週を基準とした設定とし、回数を予め示しておくことで被験者自身が終結を見据え、自我を関与させた物語構成ができるように配慮した。なおこの枠は、第2巡以降も継続させる被験者のニーズを妨げるものではない。被験者には、「コースの終了後、箱庭および物語を研究報告として公表する」ことの同意を得ている。

今回は、「喪の仕事」を課題とした男子青年の作品を取り上げ、その課題がどのように展開したかについて考察を行い、本技法の有用性についても検討した。

ここで、喪の仕事について述べておきたい。心理的、社会的、物質的な次元で、自己の一部であると認識していた対象が主観的に失われた状態を喪失体験といい、喪失に適応していく過程のことを喪という。Freud (1917) が、喪を心理社会的な一連の過程であると論じてから、喪の過程についての様々な理論が構築されてきた。代表的なものとしては、受容に至るまでの段階を示した段階説（たとえば Kübler-Ross, 1969）や、その順序をより柔軟に捉えた位相説（たとえば Parkes, 1972, 2001, 2006；Bowlby, 1980）などがある。近年では、喪の過程は自動的に進むものではなく、適応への課題に積極的に取り組むことが必要だとする課題説（Worden, 2008）も見られている。

箱庭－物語法における物語作成は、従来の箱庭療法での治癒力だけでなく、内的課題に対する意

識的・能動的な取り組みによる効果も期待できる。つまり、死別、特に自死や夭折といった要因を含むものは心身の健康に影響を及ぼしやすいことが知られているが、箱庭－物語法の取り組みを通した、思考と感情とが統合される（Worden, 2008）効果や、喪失対象の無い世界についての「意味の再構成」（Neimeyer, 2000, 2001）といった、喪失に適応し、心身の健康に寄与する効果である。

「箱庭－物語法」が自己探求の方法として有用であることを確認し、適切な実施方法を確立するためには、事例の集積を行う必要がある。ここでは「喪の仕事」が主要テーマとなった一事例を取り上げ、そのプロセスがどう展開していったか、箱庭を作る作業と物語を作る作業が、どうプロセスの進展に作用したか等について検討を行った。

【方 法】

作成者：B（20代後半・男性・大学院生）

時 期：X年9月～12月・約3か月

場 所：箱庭セットの設置された静かな面談室

回 数：原則として隔週、計6回

手続き：作り手は、まず自由に箱庭を作成。完成後、見守り手に場面を簡単に説明し、デジタルカメラで撮影、画像を持ち帰った。次回までに、その画像を題材として空想物語を作成、紙に記載し見守り手に手渡した。各回は、全て隔週での等間隔だった。ただし間隔の枠は、病気や冠婚葬祭等による時間や曜日をずらすことを妨げるものではない。見守り手は、経過中にはとくにコメントやプロンプトをせず、全6回終了後、箱庭の写真と物語を見守り手と作り手が一緒に眺めながら1時間枠での面談を行った。見守りは、筆者1が担当。筆者2は、必要に応じて筆者1への助言・指導を行った。

【結 果】

全 6 回の箱庭—物語に加え、第 1、2 および 5 回では詩歌が創作された。それらを通して展開されたのは、自死をした恋人 A に対する喪の仕事である。作り手 B による箱庭作品および物語・詩歌の一部を以下に示す。物語は、作り手の許可を得た上で内容に支障がない程度に編集・省略してある。面接プロトコルから得られた B による主観的なテーマ、そして筆者による意識水準および無意識水準における変容の解釈は表 1 に示した。なお、物語中のカギカッコ「」は直接的な会話、墨付きカッコ【】は電子メール等での間接的な会話を示す。

〈第 1 回〉

箱庭 1



写真 1 箱庭 1

物語 1

「空を飛んで、遠くに行けるような気がするんだよね。」

青い空を見るたびに A はそう呟いて、遠くに広がる空を見上げていた。

少しだけ、遠くに目を向けて A は息を吐く。一瞬、悲しそうな顔をしたかと思うと笑顔になり、こう A は言う。

「自然がたくさんあるところに行きたいの。私も自然になりたい。」

「自然？自然なんてほら、そこら中にあるじゃない。」

僕は、そばにあったキンモクセイの木を指差して言う。

「分かってないな B は。自然はもっと光ってるんだよ。」

首を傾げてみせる僕に A はまた笑いかけて言う。

それから間もなく、A はいなくなった。あまりにも突然だったけど、さほど驚かなかった。でも、ぼんやりしていると、寂しくて仕方なくなってしまい、次から次へと泣きたくなった。

目を閉じれば、君がいる。近くで笑っていた君はどんどん離れ、青になる。川を隔ててしまった後ろ姿は、幸せそうで、泣いているようで。

「もうすぐ、キンモクセイが香る季節だな。」

ふと、そう考えて、また泣きたくなった。

表 1 箱庭・物語のテーマ一覧

	作り手による主観的なテーマ	意識水準	無意識水準
第 1 回	“自然”になった恋人の回想	喪の仕事に向けての準備	個性化への旅立ち
第 2 回	檻の中での苦しみに手を出せない歯がゆさ	故人への怒り	変化に向けての「籠り」
第 3 回	嵐の海を航海する恋人とパラレルの世界に住む自分への気づき	抑圧・否認	変容のはじまり
第 4 回	死ぬことを望む恋人に吹く風を想像する自分	否認と受容の葛藤	アニマの誕生
第 5 回	自死をした恋人を思い、湧き上がる悲しみと安堵	感情の麻痺と悲しみ	アニマの成立
第 6 回	安定の場所となった墓で再び感じる不安定さ	故人との新たな繋がり	統合・個性化

〈第2回〉

箱庭 2

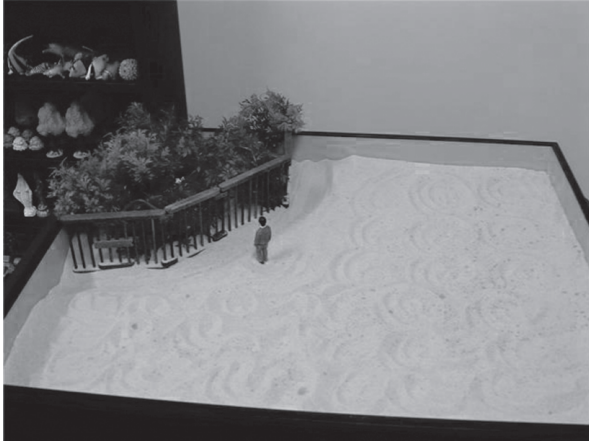


写真 2 箱庭 2－1



写真 3 箱庭 2－2

物語 2

Aはいつも遠いところにいるような人だったが、次第に、だけど確実に僕たちが一緒にいられる場所からは遠ざかっていった。

大好きな人がこんなに苦しんでいるのに。なんとかしてあげたいと思えば思うほど、何もしてやれないことに気付いた。ちょうど、檻の中で苦しむ人に手を伸ばすように。

「もう、いいよね。自分が惨めになるの。」そう言うAを、僕は怒りと悲しみが入り混じったような気持ちで眺めることしかできなかった。深い森に沈んでいく、好きな人を。

Aは祈っていた。「楽になりますように」と祈る

ほどに、彼女と僕との世界は離れ、彼女を思うほどに彼女を閉じ込める檻が強固であることが分かってしまう。

「うまくいかないもんだね。」

僕は呟き、彼女が答える。

「うまくいかないよね。」

〈第3回〉

箱庭 3



写真 4 箱庭 3

物語 3

最近Aとめっきり顔を合わさなくなった。家に行ってみても「調子が悪いんだ」と言って、扉を開けようとしな。扉の向こうから感じられる雰囲気には、嵐が吹き荒れていた。

散ったキンモクセイを見ながら歩いていると、携帯電話のバイブが鳴った。Aからのメール着信だった。

【この世界と融合できればいいのに。】

僕はとまどいながら、その意味を尋ねる。

【しいて言えば、死ぬことに近い。】

【まだ分からないよ。】

少しの間が空いて携帯が鳴った。届いたのは、何の文字も入っていないメールだった。それだけでとても伝わってきたような気がして、彼女の世界に入れないことが分かる。

〈第 4 回〉

箱庭 4



写真 5 箱庭 4

物語 4

「今回も、神様は受け入れてくれなかったよ。」
久しぶりに会った A は、うつろな目をして抑揚なく言う。これで 3 回目の自殺未遂だった。普通通りに話せる時と、僕には分からない恐怖に顔を歪める時とを繰り返す A を見ると、色々な気持ちが混じりあって、訳が分からなくなる。

「ねぇ B。死んだ後には何があるんだと思う？」

「・・・どうだろう。分からないよ。たぶん、天国と地獄かな。」

「私はね。何も無いと思う。死んだらそれでおしまい。何も無くなって、終わるの。」

しばらくの沈黙があって、A が言う。

「死ねなかったよ。」

「うん。」

まるで僕は、遠くからの声を聞いている気分だった。

〈第 5 回〉

箱庭 5

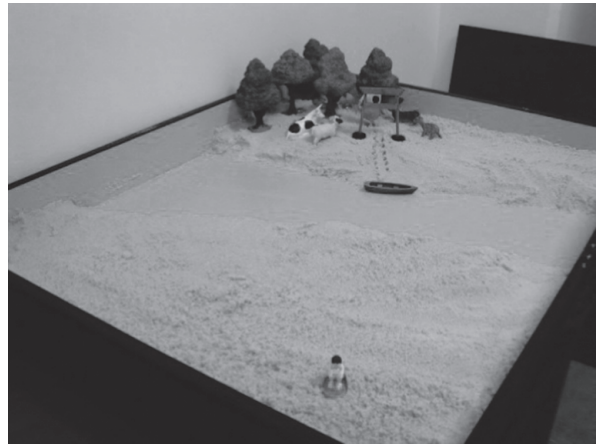


写真 6 箱庭 5

物語 5

突然、携帯電話が鳴った。知らない番号からの着信にためらいつつ電話をとると、50代くらいの男性の声。

「突然申し訳ありません。私、A の父親なんですが、お知らせしたいことがあってお電話差し上げました。先日、A が亡くなりました。」

思っていたほど、狼狽はしなかった。狼狽するには、悲しすぎたのかもしれない。

次の日、喪服を着て A の実家に行くと、一気に 10 歳も歳をとったように見える A の母親が出迎えてくれた。線香の匂いが一際強い部屋に案内され、ふすまを開けると、大きな中陰壇。その前に座り、A が元気な頃の遺影と対面する。空を眺めて、飛べるような気がすると笑っていた頃。久しぶりに見る A の笑顔を前に、線香をあげて、手を合わせる。

「なあ、A。よかったのかなあ。」

そう呟くと、まるで腹の底からわきあがってくるみたいに涙が止まらなくなった。情けなくなるくらいに。

ついに君は空を飛んだ
飛べるかもね
そういつた君は
青く晴れた日に空を飛んだ

君の体を作った散り散りは
それぞれが自由になり
散り散りに空を飛んだ

一つの君は北へ飛び
一つの君は南へ行く
遠くを焦がれた君は風に乗り
見上げた空になって地球をまわる

ついに君は空を飛んだ
青が好きだと
そういつた君は
青く晴れた日に青になった

図1 第5回に作成した詩歌

〈第6回〉

箱庭6



写真7 箱庭6

物語6

Aのお墓があるお寺までの道のりを歩いていると、嬉しいからか、悲しいからかは分からないけど、胸が熱くなりながら凍りつくような感覚がある。視界に墓が入り、刻まれたAの名前が見えると、ホッとしたような気持ちになって、時間がまた流れはじめる。

墓の前に立ち、数秒の沈黙。

「誕生日、おめでとう」

生きていれば、28歳になるはずだったAに話しかける。

「もう、何年も経つんだな。早いな。」

そう言うと、突然悲しくて仕方なくなって、しまったな、と思いながらひとしきり泣いた。

死んだ人の誕生日を祝うなんて、バカバカしいことだと思う。半分以上は自分のためで、誕生日や命日なんて、ここに来る口実に過ぎないんだろう。それでも僕は、いつもそこにある墓に、安心を得る。好きな人がいる場所に。

「もう、行かなくちゃ」

別れを告げて、Aにキスをする。

空を見ると、さっきまであった雲がなくなって、ずっと続く青空になっていた。

【見守り手と作り手の面談プロトコル】

1、体験への感想

恋人の死から、漠然とした悲しみが整理されないままに気持ちに混乱が生じることがあり、わかまる気持ちを何らかの方法で表現したいという思いが前からあった。研究の目的と手法の説明を受け、際限なく動く感情と自らの内面に向き合う絶好の機会であると考え、受諾することとした。見守り手の存在によって、安心して作業に専念できた。

2、箱庭と物語による表現の質の違い

箱庭では、内面的に持つイメージを比較的そのままの形で表現できた。様々な感覚の複合として存在する心的イメージを、砂の感触などとともにより質感をもって表現できた。しかし、心的イメージはしばしば4次元的にもなりうる。それを3次元の世界に起こそうとすると、ある程度の妥協をせねばならなかった。

他方、物語は思い通りに動かない場合もあった

が、不規則にあった気持ちや思いに理解できる枠をつけ、内的世界をより客観的に見つめることを可能にした。

3、回数が制限されていること

膨大に思えた体験を 6 回の枠内に収めるのは、難しく思えた。しかし制限があったために、最も語りたいイメージを選別しながら意識にのぼらせ、向き合うことのきっかけになった。全てを語り切れたわけではないが、感情に整理をつける一歩になったのではないかと思う。

【考 察】

作り手 B は、大切な対象である A を自死という形で喪い、その衝撃や哀惜の念を自分のところに納めることに苦慮していた。そのような折に、筆者らが箱庭－物語法の研究協力者を求めていることを知り、自分の気持ちの整理と癒しに繋がればと考え、参加を決意した。筆者らは、箱庭－物語作りが B の苦しみを深めることになってはと危惧したが、B 自身の自我の強さや知的能力に一定の信頼が置けること、必要が生じれば治療的介入が可能であること等を考慮し、「喪の仕事」を見守ることにした。

ここでは、箱庭－物語の 6 回の流れに沿って、解釈を進めたい。概観すると、箱庭作品ではより無意識に近い水準での表現、そして物語作品ではより意識に近い水準での表現がパラレルになされているようであった。

なお、箱庭の解釈は作り手自身の体験的意味に加え、ユング心理学における拡充法をもとに行われることが一般的である（木村、1985）。拡充法では比較宗教学や比較民俗学、神話や昔話の研究から得られた元型的イメージをたどり、人類にとって普遍的な象徴性にたどり着く。このような解釈のあり方にはマニュアル化されたものは無く、先

行研究（たとえば Kalff, 1966；河合, 1969；三木, 1977；片坐, 1984, 1990；木村, 1985；安福, 1990；Rice-Menuhin, 1992；岡田, 1993；東山, 1994；菅, 2003；岡田・皆藤・田中編, 2007；織田・大住, 2008；大前, 2010；長谷川, 2011 など）を参考にしながら作り手と見守り手の関係を母胎にして進めるものであると Kalff（1966）は述べている。

〈第 1 回〉

第 1 回の箱庭では、個性化に向けての旅立ちを思わせる場面が作られた。作品を見ると、中央からやや左より上方にある滝から作られる川によって、世界が二つに隔てられている。一体のフィギュアが死の方向（Koch, 1957）にある無意識の森に向かっているが、東山（1994）によると、それまでいた場所を離れて、何が潜んでいるかわからない森に向かうことは、新たな心理的課題に取り組むことを示すという。

森に向かうフィギュアが物語の A でもあると考えると、作成者の心の中にあるアニマ（女性像）が表現されているのかもしれない。周りの色とりどりの珠は、女性性と深い関係があることも東山（1994）は示唆する。男性である作り手が自我にアニマを取り入れることは、グノーシス思想に述べられる両性具有性を達成することにも繋がるが、そのためには「死と再生」を経なければならぬ。川の両岸に布置されている 2 体のフィギュアが示す苦悩の表情は、現在ある自我の「死」と、新たな自我の「再生」を予想しての苦しみを表しているのかもしれない。

物語では、A の死が描かれている。「自然になった恋人」は今後 B の心の中での居場所を見つけられる必要がある。しかし、自死による喪失に向き合うことには相当の困難が伴う。喪失対象の肯定的側面について語ることが、その後に生ずる否定的側面を味わう支えになることを Worden（2008）は述べているが、喪の仕事に向けての準備として

Aとの思い出が物語にも描かれているのかもしれない。喪の仕事における第一の課題である「喪失の現実を受け入れること」（Worden, 2008）は第5回でより詳細に語られることになるが、第1回の段階で既に触れられていることが特徴的である。このことは、6回で物語を終結させることが予め示されていたために、喪の仕事が前倒しされて進められたのではないか。時間的制限によって変化が急がれる現象は先行研究でも認められている（片坐, 1990；東山, 1994；長谷川, 2011）。しかしこれは、危機状態にも繋がりをうめるものであるため、一度に向き合えるだけの感情を扱うような「適量対処」（Worden, 2008）の配慮も必要になるだろう。

〈第2回〉

第2回の箱庭で表現されているのは、変化に向けての「籠り」であろう。無意識の森は、過去、ないしは受動性に向かう領域（Koch, 1957）に移っており、統合が行われる過程での「領域の反転」（河合, 1969）が起こっている。森の中に籠る子どもは「眠り姫」を連想させるが、アニメが子どもとしての死を経て、女性としての再生を遂げるのであろうか。個性化の課題を促進しつつ自我が崩壊しないよう守りとなる予備的なマンダラ（東山, 1994）からも、籠りを経て成熟したアニメが自我へと統合されていく過程が予想される。ただし、森の中にいる蛇は「すべてのものを成熟と完成に至らしめる原理」（Jung, 1944）であると同時に、内的課題に痛みを伴うような干渉をしてくるともRyce-Menuhin（1992）は述べており、課題を乗り越えることが容易ではないことが想像される。

物語ではAに向けるBの怒りがテーマとなっている。喪の仕事での第二の課題は「悲嘆の痛みを消化していくこと」（Worden, 2008）である。Jordan（2001）は、「あの人は、なぜ自殺したのか」「なぜ私は自殺を防げなかったのか」「どうしてあの

人は私をこんな目に合わせるのか」という自死による死別に特徴的な3つの主要なテーマを見出している。こういった答えの無い疑問にまつわり否定的な感情が生じるが、第2回の作品からは無力感や怒りなどが読み取れる。怒りや攻撃性といった感情は、自尊感情の低下とも関連するとWorden（2008）が述べる一方、菅（2003）によると内的な変容を促すエネルギーの源でもあるという。箱庭作品ではマンダラや鉄格子、物語作品では詩歌という守りによってエネルギーがコントロールされている点は、今後の肯定的な変容を予想させる。

〈第3回〉

第3回の箱庭のテーマは、変容の始まりであろう。籠りは続いているが、船の出航からは無意識のエネルギーが動きはじめていることが分かる（Kalf, 1966）。アニメは籠りながら無意識の海を探索しており、変容過程の途中にあることが示唆される。作成者自身が投影されていると考えられる男性のフィギュアは、作品2の時よりも無意識領域から距離をとって置かれている。鉄格子が木製の柵に変わっていたり、マンダラが消えていたり、作品2よりも守りが少なくなっているために、無意識の世界との交流が容易になっている一方、無意識で起こる変容の荒々しさから距離を取らざるを得ないためだろうか。

物語では、抑圧ないしは否認が起こっているようである。死が描かれつつも、感情の動きはほとんど無く、直接的なAの姿も描かれていない。第2回でのAに対する否定的な感情に耐え切れなくなったの反応なのかもしれないが、意識から締め出されたままの喪の仕事は精神状態の破綻に繋がりをうめるため、最後まで慎重なモニタリングが必要だろう（Bowlby, 1980；Worden, 2008）。

当時の作り手からは若干の気持ちの波も報告されていたが、社会生活は送れており、ソーシャル

サポートも期待できる状況だった。作り手に継続の意味もあったことから、そのまま経過を見守ることとした。

〈第 4 回〉

第 4 回の箱庭では、アニマの誕生があらわされている。「領域の反転」や境界線の消失からは、変容や統合の過程が進んだことが示唆される。また、男性のいる岸と女性のいる岸がうっすらと繋がっている構図からは、結合を経て国生みを成し遂げるイザナギとイザナミの邂逅を連想させる。しかし、籠りが明けたばかりのアニマは未だ弱々しい少女の姿で描かれており、箱庭全体としても意識と無意識との境界が不安定になっている。折り返しの回で回数の制限を意識してか、強引にでも籠りから出てこなくてはならなかったのだろう。箱庭での感覚的な表現が、物語を通してイメージから意味へと明確化されるプロセスは、一人ひとりの神話（長谷川, 2011）や自身の総合的掌握（三木, 1977）をもたらす。しかし、物語は生成されるまでに相当の熟成期間を要する（三木, 1977；長谷川 2011）。さらに、長谷川（2011）が指摘するように、機が熟さない意味化や意識化には危険が伴うのかもしれない。そんな危機の中、少女の側に置かれた鳥居が変容と統合を見守る強力な安心材料である。

物語においては、否認と受容との間でのアンバランスからの不安定さが描かれている。A は再び姿を見せるようになり、死や精神病が直接的な表現で描かれるようになった一方で、B の感情の揺れ動きは抑圧されている。しかし、故人の喪失につながる表現が徐々に明確になってきたことは注目に値する。喪失やそれに関連する事象に意識を向けられるようになったことは、行動の変容でもあり、そうすることによって喪失を現実のものとして捉えることにつながるからである（Worden, 2008）。

〈第 5 回〉

しゃがんだ少女が成熟した女性に変化していることから、第 5 回におけるテーマはアニマの成立であろうか。それと同時に、過去を表す箱庭の左側にある対岸には少女性を取り残されている。変容前の姿は諦めつつも、それを消し去ってしまうのではなく、心の中での居場所を見つけてやるのが今後必要になってくるかもしれない。女性は鳥居を神の使者でもある 4 匹の動物たちに導かれながらくぐっている。Jung による四位一体の考えにおいては、4 という数字は否定的な部分をも含めた統一性や統合性の象徴でもある。神域にある珠に向かって歩く女性は、個性化や、神性との統合を示すヌミノース体験を連想させる。

物語では、A の死を取り扱う儀式的な内容となっている。第 1 回の物語では「いなくなった」と、死を連想させるのみの描写だったが、第 5 回では明確に「亡くなった」という表現で現実世界での対象を諦める区切りが描かれている。物語上で喪失にともなう感情の麻痺や悲しみなどが言語化されるなど、悲嘆の痛みを消化する課題に取り組んでいるようである。感情を麻痺させることは、喪の仕事においては不健康な反応とは捉えられていない（Parkes & Weiss, 1983）。むしろ湧き出る感情を自身が処理しうる量に調節する働きがあるのかもしれない。ただし、故人の常軌を逸した行動や自殺企図が、自殺によって終焉を迎えたことによる安堵（Hawton & Simkin, 2003）は、罪悪感にも繋がりを（Worden, 2008）。このことは、抑うつ的な感情を引き起こすこともあるため、注意が必要である。

〈第 6 回〉

第 6 回の箱庭が表現しているのは、統合ないしは個性化であろう。アニマと男性が統合されているだけではなく、それぞれがいた領域が統合された大地になっている。また、半円をなすように布

置された木が、個性化を象徴するマンダラを形成していることが印象的である。墓石を境界とした箱庭上方3分の1には神的な領域が広がっており、天地を繋ぐ使者である鳥（Ryce-Menuhin, 1992）が羽ばたいている。また、女性性はつなぐ機能を持つと東山（1994）は述べているが、自我に統合されたアニマが意識の世界と無意識の世界とを繋ぎ、対話を可能にしているのかもしれない。

物語では、「故人との永続的な繋がりを新たに見つけ出す」ことが表現されているように思える。数年の時間経過を経て、Aのイメージは、追悼するにふさわしい墓地に移動され、墓がBにとっての「安心を得る」場所になっている。喪の仕事が終盤に差し掛かっていることの指標の一つとして「故人のことを苦痛なく思い浮かべることができる」（Worden, 2008）ことが挙げられているが、安心感のあるAとの新たな交流の在り方を見つけたBも、この段階に近づいているのではないか。すなわち、心身の健康に影響を及ぼす苦痛の低減だけでなく、死別体験を自己の一部として取

り入れ、心的な成長を得ることにも繋がりをうる。

【結 論】

本事例では、箱庭－物語法が喪の仕事を促すことが示された。しかし、喪失の意味やその裏側にある獲得に気づき「故人のいない世界に適応する」（Worden, 2008）段階を経ずに物語が締めくくられている点も見逃してはならない。回数や期間の制限が喪を促進する一方、箱庭－物語法の終了を目前にし、区切りをつけざるを得ず、語りきれない部分が残されてしまう可能性も示唆された。

また、作り手の個性化の過程もまた同時進行的に進むことが確認された。すなわち、自我を積極的に関与させる箱庭－物語法においても、無意識の水準での変容が起こる可能性が示唆された。但し、これは一例報告であるため、今後は、これらの知見を活かしつつ更なる事例の集積を通して考察を進めていきたい。

【文献】

- Bowlby, J. (1980). *Attachment and loss: Vol. 3. Loss: sadness, and depression*. New York : Basic Books.
- Freud, S. (1917). Mourning and Melancholia. *The Standard Edition of the Complete Psychological Works of Sigmund Freud, Volume XIV (1914-1916) : On the History of the Psycho-Analytic Movement, Papers on Metapsychology and Other Works*, 237-258. (井村恒朗 (訳) (1970). 悲哀とメランコリー フロイト 著作集 第 6 巻 自我論・不安本能論 人文書院, 137-149)
- 長谷川千紘 (2011). 箱庭療法における物語作り法の検討. *箱庭療法学研究*, 24 (3), 35-51.
- Hawton, K. & Simkin, S. (2003). Helping people bereaved by suicide. Their needs require special attention. *British Medical Journal*, 327, 177-178.
- 東山紘久 (1982). 遊戯療法の世界—子どもの内的世界を読む 創元社
- 東山紘久 (1994). 箱庭療法の世界 誠信書房 pp. 9-120.
- Jordan, J. (2001). Is suicide bereavement different? A reassessment of the literature. *Suicide & Life-Threatening Behavior*, 31, 91-102.
- Jung, C. G. (1944). *Psychologie und Alchemie*. Rascher-Verlag. (池田紘一・鎌田道生 (訳) (1976). 心理学と錬金術 人文書院)
- Kalff, D. M. (1966). *Sandspiel*. (河合隼雄 (監訳) (1972). カルフ箱庭療法 誠信書房 山中康裕 (監訳) (1999). カルフ箱庭療法 [新版] 誠信書房)
- 片坐慶子 (1984). サンドプレイ・ドラマ法の試験的適用—ドラマについて— 大阪教育大学障害時教育研究紀要, 7, 61-69.
- 片坐慶子 (1990). サンドプレイ・ドラマ法の試験的適用—自分らしく生きられなかった女子大生の事例を通して— *箱庭療法学研究*, 3 (2), 79-91.
- 河合隼雄編 (1969). 箱庭療法入門 誠信書房 pp. 31-45.
- 木村晴子 (1985). 箱庭療法—基礎的研究と実践 創元社 pp. 11-55.
- Koch, C. (1957). *Der Baumtest ; der Baumzeichenversuch als psychodiagnostisches Hilfsmittel 3 Auflage*. Bern:Huber. (岸本寛史ら (訳) (2010). バウムテスト [第 3 版] —心理的見立ての補助手段としてのバウム画研究 誠信書房 pp. 19-54.)
- Kübler-Ross, R. (1969). *On death and dying*. New York : Macmillan.
- 三木アヤ (1977). 自己への道. 黎明書房.
- Neimeyer, R. (2000). Searching for the meaning of meaning : Grief therapy and the process of reconstruction. *Death studies*, 24, 541-558.
- Neimeyer, R. (Ed.). (2001). *Meaning reconstruction and the experience of loss*. Washington DC : American Psychological Association.
- 織田尚生・大住誠 (2008). 現代箱庭療法 誠信書房
- 岡田康伸 (1993). 箱庭療法の展開 誠信書房
- 岡田康伸・皆藤章・田中康裕編 (2007). 京大心理臨床シリーズ 4 箱庭療法の事例と展開 創元社 pp. 97-256.
- 大前玲子 (2010). 箱庭による認知物語療法—自分で読み解くイメージ表現 誠信書房 pp. 2-23.
- Parkes, C. M. (1972). *Bereavement : Studies of grief in adult life*. New York : International Universities Press.
- Parkes, C. M. (2001). *Bereavement : Studies of grief in adult life (3rd ed.)*. Philadelphia : Taylor & Francis.
- Parkes, C. M. (2006). *Love and loss : The roots of grief and its complication*. New York : Routledge.
- Parkes, C. M. & Weiss, R. (1983). *Recovery from bereavement*. New York : Basic Books.
- Ryce-Menuhin, J. (1992). *Jungian Sandplay : The Wonderful therapy*. London:Routledge. (山中康裕 (監訳) (2003). 箱庭療法—イギリス・ユング派の事例と解釈 金剛出版 pp. 38-107.)
- 菅佐和子 (2003). サンドプレイ・ドラマ法を用いた自己探求の一試み—現代女性の攻撃性と親娘関係について— 京都大学医療技術短期大学部紀要, 23, 13-22.
- Worden, J. W. (2008). *Grief Counseling and Grief Therapy : A handbook for the Mental Health Practitioner. Fourth Edition*. New York : Springer

Publishing Company.（山本力（監訳）（2011）. 悲嘆
カウンセリング—臨床実践ハンドブック 誠信書
房pp. 5 -202.）

安福純子（1990）. 箱庭療法に関する基礎的研究（第
2 報）—サンドプレイ—ドラマの検討— 大阪教育
大学紀要 第IV部門, 39（1）, 171-181.

日本ヒューマン・ケア心理学会第6期第1回理事会 議事録

日 時：2014年3月9日（日）14：00～15：20
場 所：日本赤十字看護大学広尾キャンパス2階
ゼミ室6

出席者：安保理事、石川理事、伊藤理事
梅村理事、遠藤理事、片山理事、小玉理事、
清水理事、中原理事、森理事（以上理事
10名）

欠席者 岩崎理事、上野理事、長田理事、
木村理事、佐居理事、菅理事、鈴木玲子、
竹田真理子、山崎登志子（以上理事9名、
内7名委任状あり）
志賀令明、島井哲志（以上監事2名欠席、
委任状あり）

議 長：遠藤公久

書 記：伊藤まゆみ、梅村美代志

定足数確認

開会にあたり、議長より定足数の確認が行われた。理事の出席者10名、欠席者9名、理事欠席者の内7名から委任状の提出があった。よって、理事の出席は委任状も含め17名となり、「理事会運営内規」第3条により定足数に達し、第6期第1回理事会の成立を確認した。

第6期会長就任挨拶

遠藤会長より就任の挨拶があった。

審議事項

1. 第6回役員選挙結果について

遠藤選挙管理委員長より資料に基づき第6期役員選挙結果について説明があり、承認された。

2. 役員並びに委員会構成について

遠藤会長より資料に基づき第6期役員並びに委員会構成員の委嘱について提案され、以下の

訂正を行い、承認された。

①竹田真理子理事 学術委員から編集委員に訂正する。

②森 和代理事 研修委員から学術委員に訂正する。

なお、遠藤会長から顧問は引き続き岡堂哲雄氏に就任依頼予定であるとの説明があり、委嘱の件は会長に一任することで承認された。

3. 役員任期について

2013年総会において承認されたとおり、役員任期は2014年4月1日より2017年3月31日までとすることが説明され、確認された。

4. 臨時総会開催について

遠藤会長より「役員選挙規程」第12条に基づき、第6期役員の承認を得るために臨時総会を開催することについて下記の提案があり、承認された。

①臨時総会は、2014年3月30日（日）13時から日本赤十字看護大学で開催する。

②臨時総会開催にあたり、会員への告知は学会ホームページと葉書で行う。

5. 学会事務局移転について

清水第5期事務局長より、学会事務局の移動に関する経緯を踏まえ、下記の提案がされ、承認された。会員への安定したサポートや学会運営を担保するために、事務局は安定した所在地への移動が必要との意見があった。この意見を受けて、第6期役員会の事務局並びに編集事務局を日本赤十字看護大学遠藤研究室に置く。また、学会事務並びに編集事務を日本赤十字看護大学学会室菊本瑞枝氏に委託する。

①事務局移転に伴い、「日本ヒューマン・ケア心理学会会則」第2条の改正を臨時総会で諮

る。

- ②学会事務局は、伊藤第6期事務局長と梅村第6期事務局次長が務め、日本赤十字看護大学学会室菊本瑞枝氏と調整を図っていく。事務局移転の目処は、6月末頃までとする。事務局移転に伴い、振替口座の届け出内容を変更する。また、事務局移転に関する連絡を会員に行う。

報告事項

1. 2013年度事業計画並びに2014年度事業計画(案)について

清水第5期事務局長より理事会資料に基づき説明があった。

2. 2013年度予算並びに2014年度予算(案)について

清水第5期事務局長より理事会資料に基づき説明があった。2014年度予算(案)について、2013年度予算書との整合性から、2014年度予算(案)の一部を訂正した。なお、本日、第6期役員が承認されたため、2014年度事業計画(案)並びに予算(案)は、今後、各委員会との情報交換を行いながら、臨時総会までに資料を作成し、承認を得ることとする。

3. 第2回学会論文賞審査委員会について

岩崎学会論文賞審査委員長の代理として第6期会長から次の報告があった。

2014年度は3年に1度の学会論文賞選考の年であり、審査対象論文は「ヒューマン・ケア研究」12(1)～14(2)号までに掲載された原著論文である。

4. 学会事務局運営

- ①事務局移転に伴い、「日本ヒューマン・ケア心理学会会則」第2条の改正を臨時総会で諮る。

- ②学会事務局は、伊藤第6期事務局長と梅村第6期事務局次長が務め、日本赤十字看護大学

学会室菊本瑞枝氏と調整を図っていく。事務局移転の目処は、6月末頃までとする。事務局移転に伴い、振替口座の届け出内容を変更する。また、事務局移転に関する連絡を会員に行う。

5. 創立15周年記念記事について

遠藤会長から創立15周年記念記事を「ヒューマン・ケア研究」14(2)に掲載する旨、報告があった。

6. 学術集会第16回大会について

清水大会準備委員長より資料に基づき準備状況の報告があった。

7. 学術集会第17回大会について

遠藤大会準備委員長より学術集会第17回大会を日本赤十字看護大学において開催する方向で検討する旨、報告があった。

8. 常任理事会報告

清水第5期事務局長より、本日(2014年3月9日)13:00から第5期第14回常任理事会が開催され、第5期の用務は全て終了したとの報告があった。

次回、第6期第2回理事会は、高松において9月13日(学術大会1日目)9時から開催予定である。

日本ヒューマン・ケア心理学会第6期第2回理事会 議事録

日 時：2014年9月13日（土）9：00～10：00
場 所：香川県高松市サンポート2-1 サン
ポート高松6階61会議室

出席者：安保理事、石川理事、伊藤（ま）理事、
岩崎理事、梅村理事、遠藤理事、長田理事、
片山理事、木村理事、小玉理事、清水理
事、菅理事、竹田理事、中原理事、森理
事、山崎理事（以上理事16名）

欠席者：伊藤（美）理事、上野理事、佐居理事、
鈴木理事（以上理事4名、内4名委任状
あり）
志賀令明、島井哲志（以上監事2名欠席、
委任状あり）

定足数確認

開会にあたり、議長より定足数の確認が行わ
れた。理事の出席者16名、欠席者4名、理事欠
席者の内4名から委任状の提出があった。よっ
て、理事の出席は委任状も含め21名となり、「理
事会運営内規」第3条により定足数に達し、第
6期第2回理事会の成立を確認した。

議 長 遠藤公久
書 記 梅村美代志
会長挨拶
歓迎の辞（主催校より）

第16回主催者として香川大学清水大会委員長
より挨拶があった。

審議事項

1. 2013年度事業報告

清水前事務局長より平成25年度事業について
説明があり、承認された（資料1）。

2. 2013年度決算に関する件

清水前事務局長より2013年度決算について説
明があり、承認された（資料2）。

3. 2013年度会計監査報告

島井監事から会計監査が滞りなくおこなわれ
たとのメッセージを梅村事務局次長が代読し、
承認された（資料3）。

尚会計監査では、①事業費、管理費、予備費
と分けること、②予備費と繰越金が一緒になっ
ているので予備費として計上する。

4. 第6期役員・監事交代に関する件

1) 伊藤事務局長より体調不良により事務局長
の職務を遂行できないと申し出があり、本年
度末まで休職することが承認された。事務局
長不在の間は、会長ならびに事務局次長と現
在事務局を補佐している日本赤十字看護大学
学会室菊本氏が協力して行う。

2) 志賀監事より体調不良で9月をもって退職
し2015年3月には退会の意向が示され、監事
交替の希望が出され承認された。遠藤会長よ
り志賀監事の後任に藤澤伸介氏が推薦され、
承認された（資料4）。

5. 2014年度事業計画

資料に基づき梅村事務局次長より2014年度事
業について説明がなされ、第1回理事会では
「ヒューマン・ケア研究」第15巻1号は2014年
6月発行予定であったが現時点で発行されてい
ないため、9月発行予定であると訂正され承認
された（資料5）。

6. 2014年度修正予算案に関する件

資料に基づき梅村事務局次長より2014年度事
業について修正点が説明された。

・予算案の形式について会計監査時の意見を取
り入れ、支出の部を事業費、管理費、予備費

と分けた。

- 予備費とされていた中に繰越金と予備費が含まれていたため、別途「予備費」として20万円を計上した。
- 広報費は、今年度、主に使用されるニュースレターのページ数を4ページから6ページにして発行予定のため8万円から11万円に増額した。
- 旅費交通費について、昨年度は選挙があり約39万円かかったため、当初46万円を計上したが、今年度は特別な支出が予定されていないので36万円に減額した。
- 支出を節約しているが次期繰越金が減少傾向にあり、会員による年度会費の増収をするかどうかが課題である。それに関して、理事より会費納入方法を検討してみるよう案が出された。

2014年度修正予算案は承認された（資料6）。

7. 2015年度事業計画案

資料に基づき梅村事務局次長より2015年度事業計画案が説明され、承認された（資料7）。

8. 2015年度予算案に関する件

資料に基づき梅村事務局次長より2015年度予算案が説明され、承認された（資料8）。

9. 第17回学術集会に関する件

第17回学術集会は、2015年9月26日（土）・27日（日）東京都日本赤十字看護大学広尾キャンパスにおいて開催予定であり、大会準備委員長は日本赤十字看護大学遠藤公久会員であると説明があり、承認された。

10. 第16回総会次第

第16回総会議案は、承認された。

会について説明があり、第2条事務局を香川大学医学部看護学科清水裕子研究室から、日本赤十字看護大学遠藤公久研究室に移動したことが報告された（資料10）。

2. 第2回学会論文賞審査委員会について

第2回学会論文賞審査委員会岩崎選考委員長より、伊藤まゆみ会員の「臨死患者のケア実習における看護学生の心的衝撃への対処プロセス」ヒューマン・ケア研究Vol. 12（1），22-34を選考したことが報告された。尚、受賞した伊藤会員は、9月14日（日）第16回学術集会において受賞者講演を行う。

3. その他

安保編集委員長より編集規程の改正について説明があり、「短報」に関する記述を追加することが報告された。それに伴い編集要領は「5. 短報を除き、全ての論文には英文アブストラクトをつける。」と修正された（資料11）。

報告事項

1. 臨時総会・会則改正

遠藤会長より、2014年3月30日（日）日本赤十字看護大学広尾キャンパスで行われた臨時総

日本ヒューマン・ケア心理学会第16回総会

議事録

日 時：2014年9月13日（土）12：00～13：00

場 所：〒760-0019 高松市サンポート 2-1

高松シンボルタワー・ホール棟 5 階

議 長：清水裕子第16回大会委員長

書 記：香川大学医学部附属病院 山本麻理奈

出席者：会員29名

1. 開会

議長より開会が宣言され、書記に香川大学医学部附属病院、山本麻理奈会員が指名された。

会長挨拶 遠藤公久会長より、第16回大会委員長にねぎらいとともに挨拶があった。

歓迎の辞 清水裕子（香川大学）第16回大会委員長から、歓迎の挨拶があった。続いて大会参加者数は交流分析学会との合同大会であるため現時点では不明であり、後日報告する旨の説明があった。

2. 審議事項

1) 2013年事業報告

資料1に基づき、清水前事務局長より説明があった。

東京での会議の準備のために事務局次長が設置された、ニューズレター、学会誌は予定通りに発刊した、学会HPを商用サーバーへと変更したことなどの補足説明があった。

2) 2013年度決算に関する件

資料2に基づき、清水前事務局長より説明があった。

収支計算書、貸借対照表については資料の通り説明があった。年会費の支払いが滞っているため、過年度会費は年2回の請求を行うこと、旅費、交通費は遠方理事が3名に増加したための支出増であることなどの説明が

あった。

2013年度の予算・決算が一括審議され、異議なく承認された。

3) 会計監査報告

資料3に基づき、2013年度の予算・決算について監査が終了し、指摘事項にも対応があったことの説明が、島井・志賀監事欠席のため梅村事務局次長の監査報告書の代読により報告された。

4) 第6期役員・監事交代に関する件

資料4に基づき、遠藤会長より説明があり、志賀監事から藤澤監事への変更が承認された。

5) 2014年度事業計画

資料5に基づき、梅村事務局次長より説明があった。ヒューマン・ケア研究第15巻第1号の発行予定が6月から9月に変更されたことが説明された。

6) 2014年度修正予算に関する件

資料6に基づき、梅村事務局次長より、修正予算案について資料に沿って説明された

7) 2015年度事業計画案

資料7に基づき、梅村事務局次長より説明があった。

8) 2015年度予算に関する件

資料8に基づき、梅村事務局次長より説明があった。

2014年度事業計画案、修正予算案、2015年度事業計画案、予算案について一括審議され、質疑なく承認された。

9) 学術集会第17回大会に関する件

清水学術担当理事より、2015年日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会は、日本赤十字

看護大学にて遠藤公久大会準備委員長のもと
で開催されることが報告され、了承された。

3. 報告事項

1) 臨時総会・会則変更

資料9に基づき、遠藤会長から2014年3月
末に開催した臨時総会および事務局に関する
会則変更の説明があり、質疑なく了承された。

2) 第2回学会論文賞審査委員会事項

第2回学会論文賞審査委員会から、審査結
果について説明があり、伊藤まゆみ先生・小
玉正博先生・大場良子先生の「臨死患者のケ
ア実習における看護学生の心的衝撃への対処
プロセス」が選考されたことと2014年9月14
日に記念講演が開催されるとの報告があっ
た。

2013 年度 事業報告

	2013年度 事業報告
事務局	・ 会員入退会管理・会費管理・入会予備審査など ・ 会報作成・常任理事会議事録 ・ 理事会・総会・常任理事会の開催 ・ 学会渉外業務・名誉会員の証送付 ・ 会員情報届け出集計 ・ 事務局次長設置
広 報	・ 「HCニューズレター」 No.15 (2014年3月発行予定) ・ 学会広報メール保守・管理
編 集	「ヒューマン・ケア研究」 第14巻第1号 (2013年6月発行) 第14巻第2号 (2013年12月発行)
研 修	研修会「エスノグラフィー：データ収集および分析方法の実際」 (2013年7月6日 聖路加看護大学 麻原きよみ氏)
学 術 (大会)	第15回大会 (2013年7月6日～7日) 聖路加看護大学明石キャンパス (堀内成子大会委員長)
学 術 (Web)	・ 改訂規程のWeb掲載 ・ 学会誌・ニューズレターWeb掲載 ・ 第15回大会情報のWeb掲載 ・ 学会新事務局、学会機関誌新事務局情報Web掲載 ・ 学会ホームページ商用サーバーへの移行準備

平成 25 (2013) 年度 決算書 収支計算書

自 2013 年 4 月 1 日

至 2014 年 3 月 31 日

(単位 ; 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差異 (△減)	備 考
収入の部				
会費収入				
入会金	90,000	129,000	△ 39,000	入会金 3,000 円×43 名
2013 年度会費	1,610,000	1,426,000	184,000	7,000 円×203 名、5000 円×1 名
過年度会費	49,000	287,000	△ 238,000	7,000 円×41 名
事業収入				
雑誌売り上げ	30,000	31,000	△ 1,000	医中誌、文教大学湘南図書館、淑徳大学
雑収入				
別刷代	60,000	45,500	14,500	
その他の寄付金	0	50,750	△ 50,750	第 15 回大会委員会からの寄付
受取利息	1,000	337	663	
当期収入計 (A)	1,840,000	1,969,587	△ 129,587	
前期繰越収支差額	2,118,687	2,118,687	0	
収入合計 (B)	3,958,687	4,088,274	△ 129,587	
支出の部				
大会援助金	300,000	300,000	0	第 16 回大会
通信費	150,000	146,610	3,390	郵便切手代、宅配便送料、メール便送料、 スピーパドメイン・更新料
会議費	60,000	62,793	△ 2,793	理事会
旅費交通費	224,000	392,950	△ 168,950	常任理事
消耗品費	100,000	42,818	57,182	事務用品
学会事務局運営費	240,000	145,000	95,000	人件費
編集事務局費	80,000	32,200	47,800	人件費
機関誌発行費	900,000	849,093	50,907	機関誌 14(1)(2)
広報費	487,620	432,270	55,350	ニューズレター、HP リニューアル作業費
学会論文賞副賞	0	0	0	
雑費	40,000	3,310	36,690	振替手数料、残高証明書など
予備費	1,377,067	0	1,377,067	
当期支出 計 (C)	3,958,687	2,407,044	1,551,643	
当期収支差額 (A)-(C)	△ 2,118,687	△ 437,457	△ 1,681,230	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	0	1,681,230	△ 1,681,230	

貸借対照表

2014(平成 26)年 3 月 31 日現在

資産の部

科目	金額
現金	87,094
振替貯金	1,048,650
普通貯金	1,136,874
資産合計	2,272,618

負債及び正味財産の部

科目	金額
前受金	34,000
未払金	557,388
次期繰越金	1,681,230
負債及び正味財産合計	2,272,618

日本ヒューマン・ケア心理学会
平成 25 年度会計監査報告書

日本ヒューマン・ケア心理学会
会長 遠藤 公久 殿

監事は、日本ヒューマン・ケア心理学会会則の第 10 条の規定に基づき、日本ヒューマン・ケア心理学会の平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの第 15 期会計年度の決算書類、即ち、貸借対照表および収支計算書についての監査を行いました。

結果、貸借対照表および収支計算書は法令および会則に従い、学会の財産および収支の状況を正しく示しているものと認め、また、学会の会計は適正に執行されていることを確認し、ここにご報告申し上げます。

平成 26 年 6 月 28 日

日本ヒューマン・ケア心理学会

監事 島 中 哲 志 

監事 志 賀 令 明 

第 6 期理事会構成員（改訂版）

役職	氏名	所属	委員会役割
顧問	岡堂哲雄	聖徳大学	
会長	遠藤公久	日本赤十字看護大学	
常任理事	清水裕子	香川大学	学術委員長
理事	上野徳美	大分大学	学術委員
理事	森 和代	桜美林大学	学術委員
理事	鈴木玲子	埼玉県立大学	学術委員
常任理事	岩崎祥一	東北大学	学術 WEB
常任理事	小玉正博	埼玉学園大学	研修委員長
理事	長田久雄	桜美林大学	研修委員
理事	佐居由美	聖路加看護大学	研修委員
常任理事	安保英勇	東北大学	編集委員長
理事	菅佐和子	関西看護医療大学	編集委員
理事	山崎登志子	広島国際大学	編集委員
理事	中原るり子	東邦大学	編集委員
理事	伊藤美奈子	奈良女子大学	編集委員
常任理事	木村登紀子	いちかわ野の花心理臨床研究所	広報委員長
理事	竹田真理子	和歌山大学	広報委員
理事	石川 智	杏林大学	広報委員
理事	片山富美代	桐蔭横浜大学	広報委員
常任理事	伊藤まゆみ	共立女子大学	学会事務局長
理事	清水裕子（学術兼務）		事務局補佐
理事	梅村美代志	昭和大学	学会事務局次長
監事	島井哲志	日本赤十字豊田看護大学	
監事	藤澤伸介	跡見学園女子大学	

2014 年度 事業計画

	2014 年度 事業計画
事務局	・運営のための会議開催と報告：総会，理事会，常任理事会の開催と会報の作成 ・入退会者への対応：入会予備審査，入退会の手続き ・会員情報の管理：会員数，個人情報の整備・更新並びに管理，会員情報更新等、会費納入等 ・会計：予算の作成，決算，監査事務等 ・渉外事務：学会論文賞並びに関わる事務 ・著作権管理
広 報	・「HC ニュースレター」 No.16（2015 年 3 月発行予定） ・広報事務局 学会広報メール保守・管理、HP 管理
編 集	「ヒューマン・ケア研究」 第 15 巻第 1 号（2014 年 9 月発行予定） 第 15 巻第 2 号（2014 年 12 月発行予定）
研 修	研修会テーマ「グラウンデッド・セオリー・アプローチの方法」 日 時：2014 年 9 月 14 日（日） 13：00～16：00 場 所：香川県 サンポートホール高松 講 師：慶應義塾大学看護医療学部 戈木クレイグヒル滋子先生
学 術 (大会)	学術集会第 16 回大会 日 程：2014 年 9 月 13 日（土）・14 日（日） 場 所：香川県 サンポートホール高松 大会委員長：香川大学医学部 清水裕子
学 術 (Web)	・改訂規程の Web 掲載 ・学会誌・ニュースレター Web 掲載 ・第 16 回大会情報の Web 掲載 ・学会新事務局、学会機関誌 新事務局情報 Web 掲載 ・学会ホームページ商用サーバー移行後の保守管理

2014(平成26)年度 修正予算書

自 2014年4月 1日
至 2015年3月31日
(単位;円)

科 目	2013年 予算	予 算 案	増減	備 考
収入の部				
会費収入				
入会金	90,000	90,000	0	@3,000円×30名
年度会費	1,610,000	1,750,000	△ 140,000	@7,000円×250名(現会員数295)
過年度会費	49,000	49,000	0	@7000円×7名
事業収入			0	
雑誌売り上げ	30,000	30,000	0	
雑収入			0	
別刷代	60,000	60,000	0	
寄付金	0	0	0	
利子	1,000	1,000	0	
当期収入計(A)	1,840,000	1,980,000	△ 140,000	
前年度より繰越金	2,118,687	1,681,230	437,457	
収入合計(B)	3,958,687	3,661,230	297,457	
支出の部				
事業費				
機関誌発行費	900,000	900,000	0	機関誌Vol.15(1)(2)
大会援助金	300,000	300,000	0	第16回大会援助金
広報費	487,620	110,000	377,620	ニューズレター, HP保守
学会論文賞副賞	0	30,000	△ 30,000	
管理費				
通信費	150,000	165,000	△ 15,000	郵便送料, 宅急便送料, メール便送料, スピードドメイン・更新料
会議費	60,000	60,000	0	理事会・監査会議
旅費交通費	224,000	360,000	△ 136,000	常任理事・監査旅費
消耗品費	100,000	150,000	△ 50,000	学会封筒, ラベル印刷等
事務局費	240,000	320,000	△ 80,000	学会事務局人件費
編集事務費	80,000	80,000	0	アルバイト
支払手数料	0	20,000	△ 20,000	振替手数料, 残高証明書, 振込用紙印刷費
雑費	40,000	20,000	20,000	
予備費			0	
予備費	1,377,067	200,000	1,177,067	
当期支出計(C)	3,958,687	2,715,000	1,243,687	
当期収支差額(A)－(C)	△ 2,118,687	△ 735,000	△ 1,383,687	
次期繰越収支差額(B)－(C)	0	946,230	△ 946,230	

2015 年度 事業計画

	2015年度 事業計画
事務局	・運営のための会議開催と報告：総会，理事会，常任理事会の開催と会報の作成 ・入退会者への対応：入会予備審査，入退会の手続き ・会員情報の管理：会員数，個人情報整備・更新並びに管理，会費納入状況等 ・会計：予算の作成，決算，監査事務等 ・渉外事務 ・著作権管理
広 報	・「HCニューズレター」 No.17 (2016年3月発行予定) ・広報事務局 学会広報メール保守・管理、HP管理
編 集	「ヒューマン・ケア研究」 第16巻第1号 (2015年 6月発行予定) 第16巻第2号 (2015年12月発行予定)
研 修	研修会テーマ「未定」 日 時：2015年 9月27日 (日) 時間：未定 場 所：東京都 日本赤十字看護大学 広尾キャンパス 講 師：未定
学 術 (大会)	学術集会第17回大会 日 程：2015年 9月26日 (土)・27日 (日) 場 所：東京都 日本赤十字看護大学 広尾キャンパス 大会委員長：日本赤十字看護大学 遠藤公久
学 術 (Web)	・改訂規程のWeb掲載 ・学会誌・ニューズレターWeb掲載 ・第17回大会情報のWeb掲載 ・学会新事務局、学会機関誌 新事務局情報Web掲載 ・学会ホームページ商用サーバー移行後の保守管理

2015(平成27)年度 予算書

自 2015年4月 1日
至 2016年3月31日
(単位;円)

科 目	2014年 予算	予 算 案	増減	備 考
収入の部				
会費収入				
入会金	90,000	90,000	0	@3,000円×30名
年度会費	1,750,000	1,820,000	△ 70,000	@7,000円×260名分
過年度会費	49,000	210,000	△ 161,000	@7,000円×30 名
事業収入			0	
雑誌売り上げ	30,000	30,000	0	
雑収入			0	
別刷代	60,000	60,000	0	
寄付金	0	0	0	
利子	1,000	1,000	0	
当期収入計(A)	1,980,000	2,211,000	△ 231,000	
前年度より繰越金	1,681,230	946,230	735,000	
収入合計(B)	3,661,230	3,157,230	504,000	
支出の部				
事業費				
機関誌発行費	900,000	900,000	0	機関誌Vol.16(1)(2)
大会援助金	300,000	300,000	0	第17回大会援助金
広報費	110,000	110,000	0	ニューズレター, HP保守
学会論文賞副賞	30,000	0	30,000	3年に1回, 2015年は予定なし
管理費				
通信費	165,000	165,000	0	郵便送料, 宅急便送料, メール便送料, スピードドメイン・更新料
会議費	60,000	60,000	0	理事会・監査会議
旅費交通費	360,000	360,000	0	常任理事・監査旅費
消耗品費	150,000	100,000	50,000	学会封筒, ラベル印刷等
事務局費	320,000	320,000	0	人件費
編集事務費	80,000	80,000	0	アルバイト
支払手数料	20,000	20,000	0	振替手数料, 残高証明書等
雑費	20,000	20,000	0	
予備費				
予備費	200,000	200,000	0	
当期支出計(C)	2,715,000	2,635,000	80,000	
当期収支差額(A)－(C)	△ 735,000	△ 424,000	△ 311,000	
次期繰越収支差額(B)－(C)	946,230	522,230	424,000	

総 会 次 第

日 時：2014年 9 月13日（土）12：00～13：00

場 所：香川県高松市サンポート 2－1 サンポート高松 5 階第 2 小ホール

議 長：清水裕子第16回大会委員長

開会・書記の氏名・出席者数の確認

議 長

会長挨拶

遠藤公久会長

歓迎の辞（主催校）

清水裕子第16回大会長

【審議事項】

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. 2013年度事業報告 | 清水前事務局長 |
| 2. 2013年度決算に関する件 | 清水前事務局長 |
| 3. 2013年度会計監査報告 | 島井・志賀監事 |
| 4. 第 6 期役員・監事交代に関する件 | 遠藤会長 |
| 5. 2014年度事業計画 | 梅村事務局次長 |
| 6. 2014年度修正予算に関する件 | 梅村事務局次長 |
| 7. 2015年度事業計画案 | 梅村事務局次長 |
| 8. 2015年度予算に関する件 | 梅村事務局次長 |
| 9. 第17回学術集会に関する件 | 清水学術担当理事 |
| 10. その他 | |

【報告事項】

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. 臨時総会・会則改正 | 遠藤会長 |
| 2. 第 2 回学会論文賞審査委員会について | 岩崎論文賞審査委員長 |
| 3. その他 | |

閉 会

編集規程の改訂について

1. 編集規程の改訂について

編集規程「4.」は論文の種類を定めている箇所であるが、「短報」に関する規定がない。このため編集要領4. の文中に以下のように短報に関する記述を追記することとした。

変更前	変更後
4. 内容：本会誌は、本学会正会員のヒューマン・ケア心理学に関する未刊行の論文を掲載する。 本会誌には、オリジナルな内容の研究報告である原著論文、また追試的あるいは試験的内容の研究報告である報告・資料等の論文；巻頭言、展望、特集、書評等の編集委員会による依頼論文；及び本学会報等が収録される。	4. 内容：本会誌は、本学会正会員のヒューマン・ケア心理学に関する未刊行の論文を掲載する。 本会誌には、オリジナルな内容の研究報告である原著論文、<u>原著論文としては情報が不足しているが、公表する価値のある報告である短報</u>、また追試的あるいは試験的内容の研究報告である報告・資料等の論文、巻頭言、展望、特集、書評等の編集委員会による依頼論文、及び本学会報等が収録される。

2. 執筆要綱の改定について

執筆要領5. は英文アブストラクトについて定めている部分であるが、「短報」にはこれが不要であることが記されていない。したがって、「5. 短報を除き、全ての論文には英文アブストラクトをつける。」と、記述を改めた。

3. 機関誌編集事務局の移転の周知

機関誌編集事務局は下記に移転した。

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内21-1

東北大学大学院教育学研究科 安保研究室気付

「ヒューマン・ケア研究」編集委員会 安保英勇

Tel&Fax：022-795-6149 E-mail：jhcs@m.tohoku.ac.jp

第 5 期 第14回常任理事会議事録

期 日 2014年 3 月 9 日 (日) 13:00~13:45

場 所 日本赤十字看護大学 404研究室

出席者 小玉会長、遠藤理事、清水理事、
梅村 (議事録)、陪席 安保英勇、
伊藤まゆみ

欠席者 木村理事、長田理事、廣瀬理事、
岩崎理事

配布資料 省略

議 事

* 出席者は 3 名であるが、小玉会長が常任理事会
は成立すると宣言し会議を開始した。

1. 第13回常任理事会議事録案について
文言の修正を行い承認された。

選挙結果の有効投票総数169票→正しくは189票

2. 会員の異動

1) 入会者 0 名

2) 退会者 1 名 現会員数 303名

3. 審議事項

1) 第 6 回役員選挙の件

(1) 新常任理事会・新理事会への引き継ぎ

① 日本学術会議からの要請である法人化
について

② 名称特許申請を行うこと

③ 会員名簿の復元および入退会申込書によ
る会員のデータベース化の充実

④ 学術委員会活動の一つである「資格制度」
の検討

以上 4 点を引く継ぐこととした。

4. 報告事項

1) 学術 (木村理事 代理清水第16回学術集会
大会長)

(1) 学術集会第16回大会について

① 進捗状況、1 号通信送付について
3 月10日、大会 1 号通信を発送すると
説明がなされた。

(2) 学術集会第17回大会について
調整を継続する。

2) 学術Web (岩崎理事代理 安保理事)

学会会員データベースは約200まで入力さ
れた。

3) 研修 (長田理事 代理清水事務局長)

第16回学術集会ラウンドテーブル関連の準
備は進めている。

4) 編集 (遠藤理事)

14 (2) に15周年記事は掲載される。初稿
は出来上がっており、3 月末発刊を目指し鋭
意努力している。

5) 広報 (廣瀬理事 代理遠藤理事)

ニューズレターは機関誌と一緒に 4 月に発
送する予定である。

6) 事務局 (清水事務局長)

(1) 事務局移動の件

現事務局は事務局長が在籍する香川大学
医学部看護学科清水裕子研究室にある。そ
うようになった経緯が説明された上で、事
務局長が交代する毎に事務局も移転するの
では学会員の安定・社会的信頼感を損なう
可能性があるとし、学会事務局、編集事務
局は、2014年04月01日から日本赤十字看護
大学におくことが検討された。また、現清
水事務局長は第16回学術集会大会長でもあ
り理事会承認後に口座振替の変更を行い、
機関誌で学会員に周知する。

(2) 会議引き継ぎの件

業務を事務局長、事務局次長、日本赤十
字看護大学学会室担当の 3 人で分担する。

第 6 期 第 1 回常任理事会議事録

期 日 2014年 3 月 9 日 (日) 13:40~14:00

場 所 日本赤十字看護大学 404遠藤研究室

配布資料 省略

出席者 遠藤会長、小玉理事、清水理事、

安保理事、伊藤事務局長、
梅村事務局次長

書 記 伊藤事務局長、梅村事務局次長
欠 席 者 木村理事、岩崎理事

議 事

会議の成立について遠藤会長から説明があり、
2名欠席であるが、理事会準備のため開催する必要性が説明され、了承された。

1. 遠藤会長の就任挨拶
2. 審議事項

1) 第6回理事会の件

(1) 学会事務局について

平成25年度途中から編集事務、選挙事務を依頼している日本赤十字看護大学学会室(担当者 菊本瑞枝さん)に、現理事会事務局にある入会仮審査、会員管理、会費管理、財務管理、渉外業務について委託する案が検討され、了承された。今後は遠藤会長が交渉することとなった。

尚、学会事務局は互選理事から伊藤まゆみ理事、会務の継続性のために前清水事務局長が半年間の兼務を務め、事務局次長に第5期後半に次長を務めた梅村美代志理事が就任し、事務局長を補佐することで了承された。尚、事務局長と次長についての役割分担と会費納入先の移動は、7月1日を目処とすることで検討され、了承された。

(2) 第6期理事について(表1参照)

別途資料に基づき、遠藤会長から互選理事10名に加えて同意のあった指名理事9名と打診中である1名、監事2名が報告され了承された。その中から常任理事会構成員が報告された。顧問について、岡堂元会長に就任を依頼する予定であると説明があり、了承された。

2) 学術委員会(清水理事)

学術集会第17回大会について開催時期の確認があり、7月の方向で進められることが遠藤会長から説明された。

3) 編集委員会(安保理事)

機関誌15(1)の発刊予定は6月であるのでできるだけ早い時期での発刊を目指すよう要請があった。

4) 研修委員会(小玉理事)

第16回大会を受けて、今後進める方向であると説明があった。

5) 広報委員会(木村理事代遠藤会長)

安保理事から、学会員データベースは約200まで入力されたと報告があった。今後は広報事務局を移動するか否かの検討を行うことが説明された。

6) 学会事務局

清水前事務局長は第16回学術集会大会長であるため、準備がたてこんでくる6月末までに事務局業務を日本赤十字看護大学学会室へ移行する予定である。

次回常任理事会日程は、未定

第6期 第2回常任理事会議事録

期 日 2014年5月24日(土) 14:00~17:20

場 所 共立女子大学 伊藤研究室

配布資料 省略

出 席 者 遠藤会長、小玉理事、清水理事、
安保理事、木村理事、岩崎理事、
伊藤事務局長、梅村事務局次長

書 記 伊藤事務局長、梅村事務局次長

議 事

1. 第1回常任理事会議事録案、第1回理事会議事録案、臨時総会議事録案の確認を行い、一部の文言を修正し、承認された。

2. 会員の異動

- 1) 入会者9名、退会者8名、2014年5月24日現在287名との報告があった。前回の第5期常任理事会から報告会員数との整合性を現在、確認中である。

3. 審議事項

1) 会員登録情報管理について

伊藤事務局長より本学会入会申込書の内容に従い、会員登録情報を更新することが提案され、承認された。会員登録情報は2014年度入会者より、順次更新される。全ての会員登録情報が更新された時点で、会員番号を10桁に更新予定である。

2014年度より本学会入会申込書は電子化し、保管する。

2) 会員登録情報の変更届・退会届について

伊藤事務局長より会員登録情報の「住所等変更届・退会届」の書式について提案され、書式を「住所等変更届」と「退会届」に分けて作成することで承認された。これらの各届出の書式は会長に一任され、メール会議で承認を得ることとした。なお、書式が承認された時点で本学会ホームページに掲載することが確認された。

3) 通常総会について

遠藤会長より今年9月に開催する通常総会において、2015年度事業計画案・予算案を提出することが提案され、承認された。

4) 学術集会第17回大会について

遠藤大会準備委員長より大会日程および大会準備委員会を発足について説明があり、承認された。

4. 報告事項

1) 各委員会報告

(1) 学術委員会（清水理事）

学術集会第18回大会候補地を検討している。

(2) 学術Web（岩崎理事）

第6期役員改正に伴う名簿、会則改正、学会関連連絡先等について、ホームページの内容を修正した。2013年度に会員の協力を得て収集した会員登録情報を学会事務局に渡し、情報を更新する予定である。

(3) 研修委員会（小玉理事）

研修会の時期や内容について検討している。当面は、学術集会時に研修会を開催する予定である。

(4) 編集委員会（安保理事）

ヒューマン・ケア研究15巻1号は発刊に向けて進行中である。また、投稿論文の審査状況が報告された。

(5) 広報委員会（木村理事）

木村理事・片山理事がニューズレターを、木村理事・石川理事がメーリングリストを担当する。会員への広報、連絡等のメールは広報委員長が内容を確認後配信する。会員の異動等に伴う連絡先の追加修正は学会事務より広報委員長に連絡する。

2) 学術集会第16回大会について

清水大会準備委員長より大会の準備状況が説明された。シンポジウム等は順調に準備が進んでいるが、演題応募の状況を鑑みて応募期間を延長する予定である旨、報告があった。

3) 学会論文賞選考について

岩崎審査委員長より学会論文賞贈呈に関する内規に従い、理事に論文審査を依頼した旨、報告があった。

4) 事務局より下記の報告があった。

(1) 事務局の移転に伴う各種届出、ホームページでの会員への連絡が終了し、5月1日より事務局移転が完了した。

(2) 常任理事会、理事会、監査の交通費について、常任理事会は原則として全額支払うが、学術集会、総会、臨時総会時の常任理事会や理事会は支給しない。なお、3月9

日の常任理事会は第5期と第6期の引継ぎが行われたため交通費を支給する。

なお、交通費は辞退することも可能である。

次回常任理事会は2014年7月20日（日）10：30から日赤看護大学で開催予定である。

第6期 第3回常任理事会議事録

期 日：2014年7月20日（日）10：30～14：00

場 所：日本赤十字看護大学（共同研究室1）

出席者 遠藤公久、清水裕子、安保英勇、
木村登紀子、岩崎祥一、伊藤まゆみ、
梅村美代志

欠席者 小玉正博

議長 遠藤公久

書記 伊藤まゆみ、梅村美代志

配布資料 省略

議 事

1. 第2回常任理事会議事録（案）についての確認を行い、一部文言を修正し、承認された。

2. 会員の異動

会員数の確認を行い、前会員数は294名、2014年5月17日～7月11日までの入会者3名、退会者2名、現会員数295名との報告があった。

3. 審議事項

1) 監事交代について

志賀監事より体調不良で9月をもって退職し2015年3月には退会の意向が示され、監事交替の希望が出された。第2回理事会に諮り、承認を得ることとする。

2) 2014年度予算修正案について

(1) 2013年度会計監査について

2014年6月28日（土）日本赤十字看護大学において2013年度会計監査を行った。

会計監査では、①事業費、管理費、予備

費と分けること、②予備費と繰越金が一緒になっているので予備費が含まれていたもので、別途計上する。

3) 2014年度修正予算案について

2013年度会計監査に基づき、予算額は2014年度総会で承認を得た額を変更せず、書式を事業費、管理費、予備費と修正したものを審議した結果、経緯がわかるようにする必要がありとの意見があり修正する。

4) 第2回学会論文賞選考結果について

岩崎学会論文賞審査委員会選考委員長より結果が報告され、承認された。

5) ヒューマン・ケア研究について

編集規程の改訂、執筆要領の改訂は承認された。

6) 通常総会議案（2015年度事業計画・2015年度予算案）について

① 2015年度事業計画案の事務局内容について整理・修正した。

② 2015年度予算案について過年度会費徴収人数、事業費に学会論文賞副賞を組み込む、備考に修正した。

6) 理事会議案について

理事会議案の一部を報告事項へと修正する。

7) 学術集会第17回大会日程について

学術集会第17回大会日程は、2015年9月5日（土）、6日（日）、または9月26日（土）、27日（日）のいずれかを候補日とし、他関連学会との重複を考慮して決定する。

4. 報告事項

1) 各委員会

(1) 学術委員会（清水理事）

第16回学術集会抄録集の初稿が提示された。

本学会では学会託児を予定している。

(2) 学術Web（岩崎理事）

特に報告事項なし

(3) 研修委員会（小玉理事 代遠藤会長）

報告事項なし

(4) 編集委員会（安保理事）

学外査読者について礼状は編集委員長名にて送付する。学外査読者（非会員）への謝礼は過去の例を確認し、編集事務局費の中で支払うこととした。

Web上から投稿できるフォームへ差し替える。学会誌は発行が遅れても発行年度は本来発行する年度とする。

論文査読状況について報告された。

(5) 広報委員会（木村理事）

ニューズレターは6ページに増やし、来年3月に発行予定である。シンポジウム、ラウンドテーブル、学会論文賞のこと、大会賞受賞者のことを入れ、今年度予算額を増額した。

学会一斉メールが届かなかった会員リストが報告された。事務局に学会からの発送物が届かない人へ知らせを入れていくように依頼があった。

3) 事務局

① 会員登録情報管理の『入会申込み書』に、学会および広報メールの受信を希望するか、メールアドレスの受信先の第1希望、第2希望を加筆する。広報で受け付けて一斉送信会員用メーリングリストに登録する。

② 新しい会員情報は入力を開始しており、8月中くらいには終わられる見込みである。

③ 会員登録情報変更届は会員登録情報更新届として、学会ホームページにのせ、郵送でも送付する。

④ 会員への連絡：『会員登録情報更新変更届・退会届』案を検討し、ホームページに

掲載あるいは郵送にするのかは検討する。届出の方法は検討する。

⑤ 会員メーリングリスト、広報との連携を図る。

次回常任理事会：2014年9月12日（金）17：30～19：30 サンポート高松 6階会議室

第6期 第4回常任議事録

日 時 2014年9月12日（金）17：30～19：30

場 所 サンポート高松 6階会議室

出席者 遠藤公久、清水裕子、安保英勇、木村登紀子、岩崎祥一、梅村美代志

欠席者 小玉正博、伊藤まゆみ

議長 遠藤公久

書記 梅村美代志

配布資料 省略

議 事

1. 第3回常任理事会議事録（案）についての確認を行い、一部文言を修正し、承認された。

2. 会員の異動

2014年7月12日～9月5日まで入会者、退会者ともになく、現会員数295名。

3. 審議事項

1) 第6期第2回理事会議案について（遠藤会長）

第6期第2回理事会議案は承認された。

2) 第6期第2回総会次第について（遠藤会長）
第6期第2回総会次第は承認された。

3) 学術委員会事項

学術集会第17回大会について清水学術委員長と遠藤大会準備委員長から説明があった。

第17回大会の会期は、2015年9月26日（土）・27日（日）と決定したとの説明があり承認された。

4) その他

特記事項なし

4. 報告事項

1) 第6期委員会構成員名簿改訂について（遠藤会長）

志賀監事から藤澤監事への交替が報告された。

また、伊藤事務局長が体調不良のため本年度残りの任期の役割を遂行できないと申し出があった。そのため、事務局は、事務局次長と菊本氏と協力して行うことが報告された。

2) 各委員会

(1) 学術委員会（清水理事）

第17回学術集会準備状況が報告された。

(2) 学術Web（岩崎理事）

報告事項なし

(3) 研修委員会（小玉理事）

報告事項なし

(4) 編集委員会（安保理事）

ヒューマン・ケア研究15（1）発刊へ向けての現状が報告された。

(5) 広報委員会（木村理事）

来春発効予定のニューズレター（第16号）の企画（主として第16回学術集会の記事と依頼先・依頼状況など）が報告された。

3) 合同大会として準備を重ねてきた第16回大会について報告があった。

次回常任理事会：2014年12月開催予定

日本ヒューマン・ケア心理学会会則

制定 1999年5月1日
改正 1999年10月30日
改正 2002年6月2日
改正 2006年9月6日
改正 2007年9月8日
改正 2009年7月19日
改正 2010年7月19日
改正 2010年12月11日
改正 2011年7月24日
改正 2014年7月30日

(名 称)

第 1 条 本会は、日本ヒューマン・ケア心理学会と称する。

(事務局)

第 2 条 本会の事務局は、当面、〒150-0012東京都渋谷区広尾4-1-3、日本赤十字看護大学遠藤公久研究室に置く。

(目 的)

第 3 条 本会は、看護・介護・世話などのヒューマン・ケアにかかわる領域の心理学的研究を推進し、その進歩・発展・普及に貢献することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために、機関誌の発行、ヒューマン・ケア心理学に関する研究発表・研修のための集会、関連分野との学際的な連携等の事業を行う。

(会 員)

第 5 条 本会は、正会員、名誉会員及び賛助会員、購読会員をもって構成される。

正会員は、次のいずれかの条件を満たす者で、ヒューマン・ケア心理学に関心のある者とする。

- ① 大学で心理学及びその隣接領域を専攻し、学士の学位を有する者
- ② 学士の学位を有し、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士などとして登録されている者
- ③ 上記の①ないし②と同等以上の経歴を有すると認められる者

名誉会員は、正会員のうち本会の運営・学術研究活動において著しい功績のあった者で、理事会の発議により総会の承認を得た者とする。

賛助会員は、本会の事業に財政的な援助をなす者で、理事会の承認を得た者とする。

購読会員は、学会誌ヒューマン・ケア研究の購読ができる個人と機関である。

(入 会)

第 6 条 本会に正会員として入会しようとする者は、正会員1名以上の推薦により、常任理事会の承認を得なければならない。

(会員の権利)

第 7 条 本会の会員は、本会の諸事業に参加し、本会の編集出版物等について優先配付を受けることができる。

正会員は、本会が行う研究のための集会、並びに機関誌に研究発表を行うことができる。

(退 会)

第 8 条 会員が退会しようとするときには、文書をもってその旨本会に通知し、常任理事会の承認を得なければならない。

(除 籍)

第 9 条 所定の会費を2年以上滞納した者に対しては、理事会の議決を経て、これを除籍することができる。

(役 員)

第 10 条 本会の事業を運営するために、正会員は次の役員を互選する。役員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。

会長1名 会長は理事の互選により決定し、本会を代表し、会務を統括する。会長は常任理事の内1名を副会長に指名できる。

常任理事若干名 理事の互選により決定し、通常会務を執行する。内1名は事務局長とする。

理事若干名 正会員の互選により決定し、本会を運営する。

監事2名 正会員の互選により決定し、本会の会計及び会務執行を監査する。

2 顧問を置くことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が委嘱する。顧問の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。

(運 営)

第 11 条 総会は、正会員をもって構成し、本会の最高機関として会の意思と方針を決定する。決議は、出席者の過半数の同意による。

理事会は、本会の事業の運営と執行の責任を負う。

常任理事会は、理事会の委託を受けて、本会の通常会務の執行にあたる。

(会 計)

第 12 条 本会の経費は、会費、寄付金及び補助金などでまかなう。

会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日までとする。

会費は、入会金及び年会費とする。

入会金は、3,000円とする。

正会員の年会費は、7,000円とする。

賛助会員の年会費は、1口20,000円とする。

名誉会員から年会費は徴収しない。

購読会員の年会費は、年間に発行された機関誌実費とする。

年会費は、前年度末（3月31日）までに、納めるものとする。

（会則の変更）

第 13 条 本会則は、理事会の議を経て、総会に出席した正会員の 3 分の 2 以上の賛成による承認をもって、これを変更することができる。

付 則

1. 本会則は、日本ヒューマン・ケア心理学会設立の日（1999年5月1日）から施行する。
2. 本学会の第1期役員は、第11条第1項（上記の現会則第10条第1項）の規程にかかわらず、日本ヒューマン・ケア心理学会設立発起人をもって充てる。
3. 本会則は、1999年10月30日に一部改正し、同日より施行する。
4. 本会則は、2002年 6月2日に一部改正し、同日より施行する。
5. 本会則は、2006年 9月6日に一部改正し、同日より施行する。
6. 本会則は、2007年 9月8日に一部改正し、同日より施行する。
7. 本会則は、2009年 7月19日に一部改正し、同日より施行する。
8. 本会則は、2010年 7月19日に一部改正し、同日より施行する。
9. 本会則は、2010年12月11日に一部改正し、同日より施行する。
10. 本会則は、2011年 7月24日に一部改正し、同日より施行する。
11. 本会則は、2014年 3月30日に一部改正し、同日より施行する。

学会事務関連の連絡先

学会事務局

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学 遠藤公久研究室気付 日本ヒューマン・ケア心理学会事務局

E-mail: humancarepsy@redcross.ac.jp ダイヤルイン03-3409-0914（FAX共）

学会機関紙事務局

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内21-1

東北大学大学院教育学研究科 安保研究室気付 「ヒューマン・ケア研究」編集委員会 安保英勇

Tel&Fax 022-795-6149 E-mail: jhcs@m.tohoku.ac.jp

学会広報メール

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内27-1

東北大学教育学研究科安保研究室気付

日本ヒューマン・ケア心理学会 学会広報メール事務局 E-mail: member@j-hc.jp

学会ホームページ（学会WEB業務）：岩崎祥一氏（東北大学）

日本ヒューマン・ケア心理学会役員選挙規程

第1条 日本ヒューマン・ケア心理学会会則第10条に定める役員の選挙等を適正に実施するために、この規程を定める。

第2条 日本ヒューマン・ケア心理学会の役員選挙の管理業務は当該選挙の事由が発生する3ヶ月以前を基準として、当該時の本学会理事会が選挙管理委員会(以下、委員会という)を組織してこれを行う。

2 委員会は、3名の委員によって構成され、その代表責任として選挙管理委員長を定めなければならない。

3 委員会の事務は、学会事務局が担当する。

第3条 理事の定員は当分の間正会員の互選による理事(以下、互選理事という)10名及び会長指名による理事(以下、指名理事という)10名とする。

2 常任理事の定員は当分の間、若干名とする。

第4条 委員会は以下の業務を行う。

(イ) 選挙実施日程の確定と公示

当該選挙のための委員会が成立した日より6ヶ月以内に選挙実施日程と実施手続きに関する計画書を作成し、これを公示する。

(ロ) 選挙台帳の作成と公示

選挙台帳は役員改選年の12月1日の会員名簿により作成し、第6条による指定日の1か月以前に公示するものとする。ただし、前年度までの会費未納者は選挙台帳から削除する。

(ハ) 選挙の実施と開票結果の確定

本規定第6条により厳正な選挙を実施する。開票結果の確定は第8条によりこれを行う。

開票に際して会員の任意な立ち会いを認めるが、会場の都合により人数を制限することがある。

(ニ) 選挙結果の報告

委員会は開票業務の終了後、その結果を常任理事会に報告する。

(ホ) その他選挙を厳正かつ円滑に行うのに必要と思われる業務を行う。

第5条 選挙権及び被選挙権は選挙台帳に記載される個人に与えられる。

2 選挙台帳の作成される所定期日に海外に居住するものは選挙権及び被選挙権を有しない。

第6条 選挙は選挙台帳記載会員の互選により無記名投票とする。投票は所定の投票用紙を用いる郵便投票とし、指定の日付までの消印のあるものをもって有効とする。その他無効となる投票内容は委員会の定めるところによる。

第7条 投票は互選理事については3名連記とし、監事については単記とする。

第8条 当選者の確定は得票順による。ただし、次の場合はこの限りではない。

(イ) 同点者の生じた場合は抽選によって決める。

(ロ) 欠員の生じた場合は次点者をもって補う。ただし、次回改選期日の1年以前に限り適用する。

(ハ) 前項によって選出された者の任期は、前任者の残りの期間とする。

(ニ) 理事及び監事の双方に当選した場合は、理事の当選を優先し、監事は次点者をもってあてる。

第9条 会長指名のための選挙は互選理事により無記名の投票で行う。ただし、同点者の場合は抽選によって決める。

2 欠員の生じた場合は、次点者をもって補う。

3 前項によって選出された者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第10条 指名理事は、ヒューマン・ケア心理学領域における顕著な業績あるいは日本ヒューマン・ケア心理学会への貢献度等に基づいて会長が指名する。

第11条 常任理事は互選理事及び指名理事のなかから会長が指名する。

第12条 会長は、会長、常任理事、理事、監事及び事務局長について総会で承認をうるものとする。

第13条 本規定の改正は理事会出席者の3分の2以上の賛成による議決と総会出席者の承認により行われる。

附 則 この規程は、2004年8月26日より施行する。

2 この規程は、2010年12月11日に改正し、同日より施行する。

3 この規程は、2013年7月6日に改正し、同日より施行する。

日本ヒューマン・ケア心理学会学会論文賞贈呈に関する内規

第1条 日本ヒューマン・ケア心理学会（以下、本学会）は、優れた研究業績をあげた個人に対して「日本ヒューマン・ケア心理学会論文賞」（以下、学会論文賞という）を贈るために本内規を定める。

第2条 学会論文賞は、第1回を2011年度に、以後3年ごとに、年次総会または学会論文賞贈呈式において、これを表彰して贈る。

第3条 学会論文賞は、当分の間、一件につき3万円相当の副賞を添えてこれを贈る。

2. 副賞は、経常経費の一部をもって、これに当てる。

第4条 学会論文賞を贈るための審査委員会（以下、委員会という）を本学会に設ける。

2. 委員会は、学会論文賞表彰前年に構成し、理事会の互選によって選ばれた5名の委員によって組織するものとする。

3. 審査委員長は、原則として編集委員長がその任にあたる。

4. 委員長は、当該年度の総会・学会論文賞贈呈式の開催日の1ヶ月前までに当該年度の表彰者を内定し、所定の書式により、これを会長に報告するものとする。

5. 会長は、委員長の報告内容を常任理事会に諮問し、その承認を得て表彰者を決定する。

第5条 委員会は、当該年度の学会論文賞候補者（以下、候補者という）の推薦を得るために、理事に別に定める手続きにより候補者の推挙を得なければならない。

2. 委員会の定める候補者の推薦手続きに関する事項は、原則として以下による。

①学会論文賞候補者は、審査委員会が開催される時点で3年以上本学会会員であること。

②学会論文賞候補者の推薦は、所定の期間に「ヒューマン・ケア研究」に候補者が単独または筆頭著者として発表した原著論文に基づくこと。

③推薦を行う場合は、その理由を明示した推薦書を委員会に提出すること。

3. 選考基準については別途定める。

4. 委員会は、委員長を議長として審議し、被表彰者の内定は、出席委員の5分の4以上の賛成によりこれを決する。

5. 学会論文賞の受賞者は、直近の学術集会において、その成果に関する講演を行うものとする。

第6条 委員会の審議内容は、他に口外してはならない。

第7条 本内規の改廃は、理事会の審議を経て本学会の会長が行う。

附 則 本内規は2010年7月18日より施行する。

編 集 規 程

1. 名称：本会誌は「ヒューマン・ケア研究」と称し、英文名はJournal of Human Care Studiesとする。
2. 企画・編集：本会誌は当分の間、年2回発行するものとし、その企画・編集は常任理事により構成される機関誌編集委員会が担当する。
3. 機関誌に関する事務は当分の間、学会事務局が取り扱うものとする。
4. 内容：本会誌は、本学会正会員のヒューマン・ケア心理学に関する未刊行の論文を掲載する。本会誌には、オリジナルな内容の研究報告である原著論文、原著論文としては情報が不足しているが、公表する価値のある報告である短報、また追試的あるいは試験的内容の研究報告である報告・資料等の論文；巻頭言、展望、特集、書評等の編集委員会による依頼論文；及び本学会報等が収録される。
5. 投稿論文は、編集委員会によって審査され、採択の可否が決定される。その際、編集委員会は、本学会正会員の編集協力者に査読を依頼し、その査読結果を参考にして採択の可否を決定する。
6. 投稿論文の原稿は、「ヒューマン・ケア研究」の執筆要項に準じたものとする。執筆要項は、編集委員会で定める。
7. 採択論文の掲載に要する費用は、原則として本学会で負担するが、図表等に関してその費用の全部もしくは一部を執筆者に請求することがある。
8. 採択論文の別刷りは、執筆者の希望部数に応じるが、その費用は執筆者の負担とする。
9. 投稿採択論文は返却しない。
10. 本会誌に掲載されたものの著作権は、本学会に帰属する。

執 筆 要 領

1. 原著論文（Article）は16,000字相当（図表も含む）、展望（Review）は20,000字程度、報告・資料論文（Report）は12,000字程度、短報（Short Report）は4,000～8,000字程度とする。
2. 上記論文はA4判用紙に32字×25行1段の字詰め・行詰め、英文原稿の場合は、A4判でダブルスペース仕様にする。英文の場合、本誌1頁あたり800語程度に相当するものとして換算する。オリジナル原稿には、表題・著者名・所属機関名を記したタイトルページ、およびそれらの英訳は本文とは別に書くこと。原稿は本文、図表を同一ファイルにして、下記事務局まで電子メールにて添付・送付し、同原稿も事務局まで郵送すること。
3. 論文の表題、著者名、所属機関名およびそれらの英訳は本文とは別に書くこと。
4. 原著論文および資料論文は原則として、問題（目的）、方法、結果、考察、文献からなることが望ましい。
5. 短報を除き、全ての論文には英文アブストラクトをつける。アブストラクトは、問題（Objectives）、方法（Method）、結果（Results）、結論（Conclusion）などを100～175語以内で簡潔にまとめる。投稿時には、アブストラクトの日本語原稿（和文抄録）も添付すること。英文アブストラクトおよび日本語

- 原稿(和文抄録)にそれぞれ3～5語のキーワードをつける。なお、英文アブストラクトは各自ネイティブチェック(専門家)を受け、その証明書を提出する。(希望者はHomepageからダウンロードできる)
6. 本文の記述は簡潔で明解にし、新仮名使い、当用漢字、算用数字を用い、図表はその大きさを本文に換算して所定枚数に納めること。所定枚数を超えた分については著者負担とする。
 7. 図および写真はそのまま掲載可能な鮮明なものを提出すること。なお、図がカラーの場合には著者負担になる。
 8. 表の場合は上にTable 1、Table 2あるいは表1、表2のように、図の場合には下にFigure 1、Figure 2あるいは図1、図2のように通し番号をつけ、それぞれに見出しをつける。表、図、写真などの題、説明文、図表中の文字は英文にしてもよい。図表は本文中には挿入せず最末尾に置き、掲載箇所のみ本文欄外に明示すること。
 9. 数字は原則として算用数字を用いる。計量単位は原則として国際単位を用いる。
 10. 略語は一般に用いられているものに限る。ただし、初出の時にその旨を明記する。
 11. 脚注は通し番号をつけて別紙に書き、本文中の番号と対応するように註1) 註2) のように記す。
 12. 外国人名、地名等の固有名詞以外は訳語を用い、必要な場合、初出のとき原語を付すること。
 13. 本文で引用された文献の配列は、著者名のアルファベット順とする。

文献掲載様式は、雑誌の場合：著者名・発行年(西暦)・題名・雑誌名・巻号数・掲載頁とする。単行本の場合：著者名・発行年(西暦)・書名・発行所・引用・参考箇所の頁とする。翻訳の場合：原典の著者名・発行年(西暦)・書名・発行所(著者名の訳語・翻訳者名・翻訳書の発行年・書名・発行所)とする。このとき、和文、欧文を問わず、雑誌の巻数はボールド(太字、あるいは波線のアンダーライン)に、また欧文の雑誌名および書名はイタリック(斜体、あるいは実線のアンダーライン)にする。

〈凡例〉

日野原重明(1999). <ケア>の新しい考えと展開 春秋社

木野和代(2000). 日本人の怒りの表出方法とその対人的影響 心理学研究, 70, 494-502.

Sourial, S. (1966). An analysis and evaluation on Watson's theory of human care, *Journal of Advanced Nursing*, 24, 404-402.

Kleinman, A. (1988). *Patients and healers in the contexts of culture*. University of California Press.

(クラインマン, A. 江口重幸・五木田紳・上野豪志(訳)(1996), 病の語り～慢性の病をめぐる臨床人類学 誠信書房)

なお、その他表記の詳細については、『APA論文作成マニュアル』(医学書院、2004年)あるいは日本心理学会発行の「執筆・投稿の手びき」(2005年版)を参照のこと。

原稿送り先

「ヒューマン・ケア研究」編集委員会

〒980-8576

宮城県仙台市青葉区川内 27-1

東北大学大学院教育学研究科 安保研究室気付

TEL : 022-795-6149 (FAX 共) (ダイヤルイン)

E-mail : jhcs@m.tohoku.ac.jp

『ヒューマン・ケア研究』 投稿用紙 (コピーしてご利用下さい)

論文名

和文	
英文	
原稿枚数	本文 枚 + 図・表 点 = 合計 枚

論文の種類 (ひとつだけ○をつける)

原著	報告・資料	展望	短報	その他 ()
----	-------	----	----	------------------------------

投稿履歴 (ひとつだけ○をつける)

初回投稿原稿	修正ないし再投稿原稿
--------	------------

連絡先

氏 名	姓 名 Middle name		
住 所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

投稿者用チェックシート

投稿に際しては以下を必ずご確認ください

- ☐ 投稿原稿は、表紙（タイトル、著者、キーワード、所属）、抄録、英文要約、本文、図表の順に頁番号を入れた電子ファイル（ワープロあるいはテキスト）にして下さい。ただし、表紙は無番号にして下さい。
- ☐ 図表は本文中に挿入せず、挿入位置のみを指示して下さい。
- ☐ 和文原稿には和文抄録と英文要約を添付し、英文原稿では和文要約を添付して下さい。
- ☐ タイトル、キーワード（3～5 個）、著者名・所属機関名には、それぞれ英文を併記して下さい。
- ☐ 投稿原稿はメールで電子ファイルを 1 部提出し、初回のみ印刷原稿 1 部を郵送して下さい。
- ☐ 修正原稿の際は、修正論文中に修正箇所の表示（アンダーラインなど）して下さい。
- ☐ 修正原稿の際は、修正済み論文に修正箇所と審査者への回答一覧表を添付して下さい。

原稿提出年月日	年	月	日
---------	---	---	---

原稿受稿年月日	年	月	日 (←編集委員会記載欄)
---------	---	---	---------------

原稿受理年月日	年	月	日 (←編集委員会記載欄)
---------	---	---	---------------

日本ヒューマン・ケア心理学会入会申込書

申込日 年 月 日 () 正会員・() 機関会員 * 受付番号

氏名	フリガナ 漢字	印		生 年 月 日	西暦 年 月 日生
	ローマ字				
現住所		〒 Phone : Fax: E-mail address: (必須)			
所属 機関	勤務先	所属	〒 Phone : Fax: E-mail address: (必須)		
		住所			
	所属先*	所属	* 学生の場合。		
		住所	〒 Phone : Fax: E-mail address: (必須)		
専攻分野 (該当箇所に○) (複数可)		心理学・看護学・社会福祉学・社会学・法律学・医学・教育学・ リハビリテーション科学・作業療法・理学療法・言語療法・その他() 資格:			
主な研究テーマ (複数可)					
最終学歴		(年 月)			
推薦者 氏名					
機関紙送付先		() 自宅 () 所属機関			

* 事務局記入欄

受付年月日	年 月 日	会員番号	
承認年月日	年 月 日	承認番号	

日本ヒューマン・ケア心理学会役員（第6期）

（*は常任理事、五十音順）

会 長	遠藤 公久(日本赤十字看護大学)
理 事	* 安保 英勇(東北大学)、石川 智(杏林大学)、* 伊藤 まゆみ (共立女子大学)、伊藤 美奈子(奈良女子大学)、* 岩崎 祥一(東北大学)、上野 徳美(大分大学)、梅村 美代志(昭和大学)、* 遠藤 公久(日本赤十字看護大学)、長田 久雄(桜美林大学)、片山 富美代(桐蔭横浜大学)、* 木村 登紀子(いちかわ野の花心理臨床研究所)、* 小玉 正博(埼玉学園大学)、佐居 由美(聖路加国際大学)、* 清水 裕子(香川大学)、菅 佐和子(関西看護医療大学)、鈴木 玲子(埼玉県立大学)、竹田 真理子(和歌山大学)、中原 るり子(東邦大学)、森 和代(桜美林大学)、山崎 登志子(広島国際大学)
監 事	藤澤 伸介(跡見学園女子大学)、島井 哲志(日本赤十字豊田看護大学)
顧 問	岡堂 哲雄(聖徳大学)
事務局長	伊藤 まゆみ(共立女子大学)

機関誌編集委員(*は委員長、五十音順)

* 安保 英勇、伊藤 まゆみ、岩崎 祥一、遠藤 公久、木村登紀子、小玉 正博、清水 裕子

編 集 後 記

既にお知らせしている通り、昨年本学会の役員改選がございました。これにより、本誌の編集事務局が変わり、論文等の送付先・連絡先も変更になっております。すでにホームページなどではお報せ済みですが、改めまして、下記の通りご案内いたします。

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 21-1

東北大学大学院教育学研究科 安保研究室気付 「ヒューマン・ケア研究」編集委員会
Tel & Fax 022-795-6149 E-mail:jhcs@m.tohoku.ac.jp

また、このように発刊が遅れましたこと、お詫び申し上げます。一方で、慢性的な原稿不足にも陥っております。会員の皆様、どうぞ奮ってご投稿いただければと存じます。また、周囲の方々へもお声掛けいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

(2014/12/31 編集委員長 安保 英勇)

ヒューマン・ケア研究 第15巻第1号 2014年12月31日発行

編 集	日本ヒューマン・ケア心理学会編集委員会
代表者	安保 英勇
発 行	日本ヒューマン・ケア心理学会
代表者	遠藤 公久
事務局	〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4 丁目 1 - 3 日本赤十字看護大学 遠藤公久研究室気付 日本ヒューマン・ケア心理学会 TEL: 03-3409-0914 (FAX 共) E-mail: humancarepsy@redcross.ac.jp
印 刷	東洋出版印刷株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷 2 -40-13 本郷コーポレーション604 号室 TEL: 03-3813-7311 FAX: 03-3813-7314 E-mail: toyo-pp@peace.ocn.ne.jp

©日本ヒューマン・ケア心理学会2014
(本誌掲載の記事は無断転載を禁じます)

HC